

卒業生を対象とした獣医学教育および学科再編に関する

アンケート調査報告

平成15年2月

宮崎大学同窓生有志

## はじめに

獣医学科再編は大学関係者に限らず、全ての獣医師の重大な関心事である。獣医学科教官の努力によって教育改善の必要性がようやく広く理解されるようになったが、この機運を生かすために今後は社会からの働きかけも必要である。なかでも実際に教育を経験し、社会に出ている獣医師自らの意見や支持は、この切実な問題を広く理解してもらう際に説得力を付加し、これまで進められてきた再編運動の妥当性を強く裏付けることにつながる。今のところその声を集める積極的な活動は行われていないが、6年制教育を受けた卒業生（獣医師）がその内容をどう評価しているのか、獣医学と関係の深い国民の視点から学科再編の必要性、意義についてどう考えているのかなどの実態を知ることが、再編の目的からして必要な事と思われる。

それらを把握するために、宮崎大学獣医学科を卒業して社会に出た獣医師を対象にアンケート調査を実施し、意見の収集を試みた。その結果きわめて高い回収率が達成され、真剣かつ熱意ある多くの意見が集まり、同窓生諸兄の獣医学に対する深い思いと、教育改善への要望がいかに切実であるかをあらためて認識した次第であった。ご協力いただいた同窓生各位に深謝する。

平成15年2月4日

宮崎大学卒業生  
伊東輝夫  
河野弘憲  
下村高司  
三川和博  
三川真由美

## 内 容

1 . アンケートの方法と回答者 . . . . .	4
2 . 教育に関する調査結果 . . . . .	5
3 . 再編に関する調査結果 . . . . .	10
4 . 回答者からの意見 (まとめ) . . . . .	14
5 . 考察とまとめ . . . . .	16
6 . (付録) 回答者からの意見	
知識習得について . . . . .	19
技術習得について . . . . .	23
各科目について . . . . .	26
6年制教育について . . . . .	29
6年制教育 : 教育以外の面について . . . . .	36
入学前の予想との違い . . . . .	37
再編について . . . . .	39
統廃合の方法について . . . . .	49
意志反映について . . . . .	53

## 1. アンケートの方法と回答者

アンケートの作成：

獣医学教育改善のホームページより入手した情報と資料を参考に質問内容を作成した。再編に関する意見を求めるにあたっては、最近の議論の経緯、賛否双方の意見が情報として必要との判断から、それを簡略化して提示した。またすべての回答欄に意見記載欄を設け、回答の根拠および補足の記載を求めた。

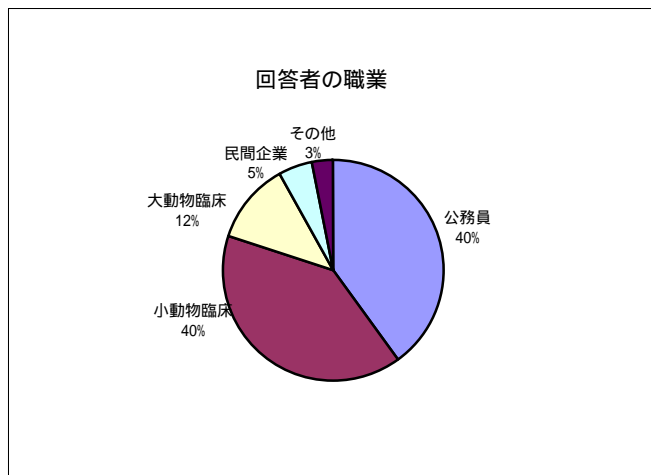
アンケート用紙配布者：

昭和63年から平成15年の間に宮崎大学農学部獣医学科を卒業した獣医師のうち、主に県内在住者を対象に収集が容易な卒業生を選択して配布し、必要に応じて郵送した（配布部数106）。

アンケートの回収時期：平成15年1月14日～1月30日

回収数（回収率）：100部（94.3%）

回答者：昭和63年～平成6年卒：44名 平成7～15年卒：56名、男性54名 女性46名

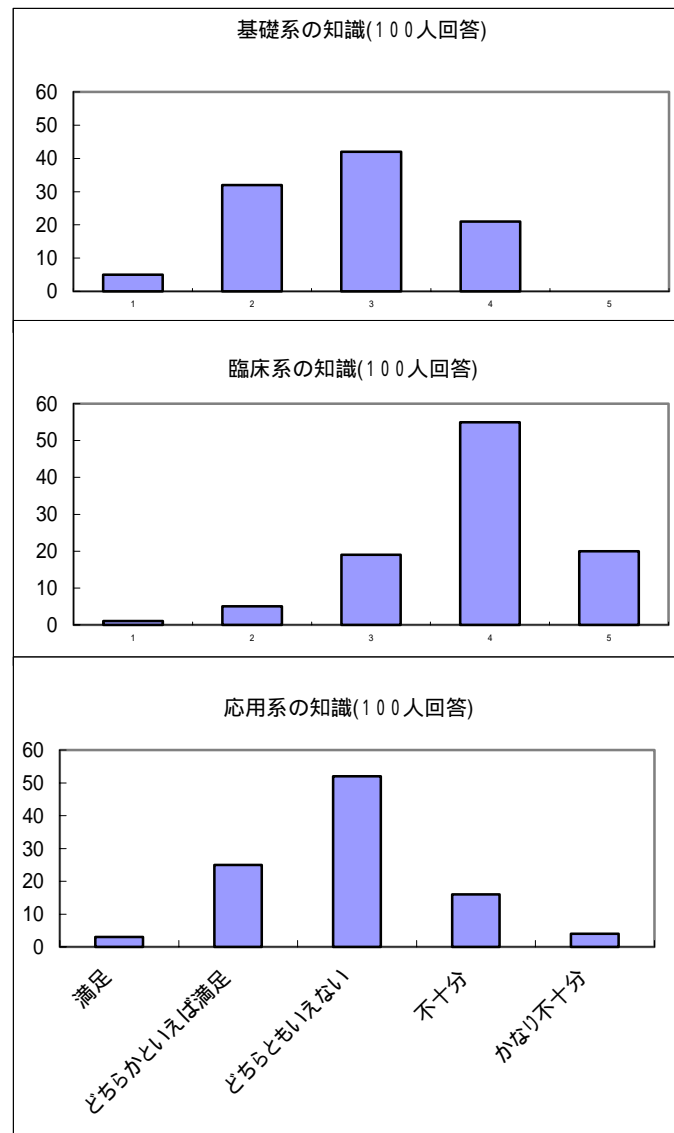


回答者名：省略

## 2. 教育に関する調査結果

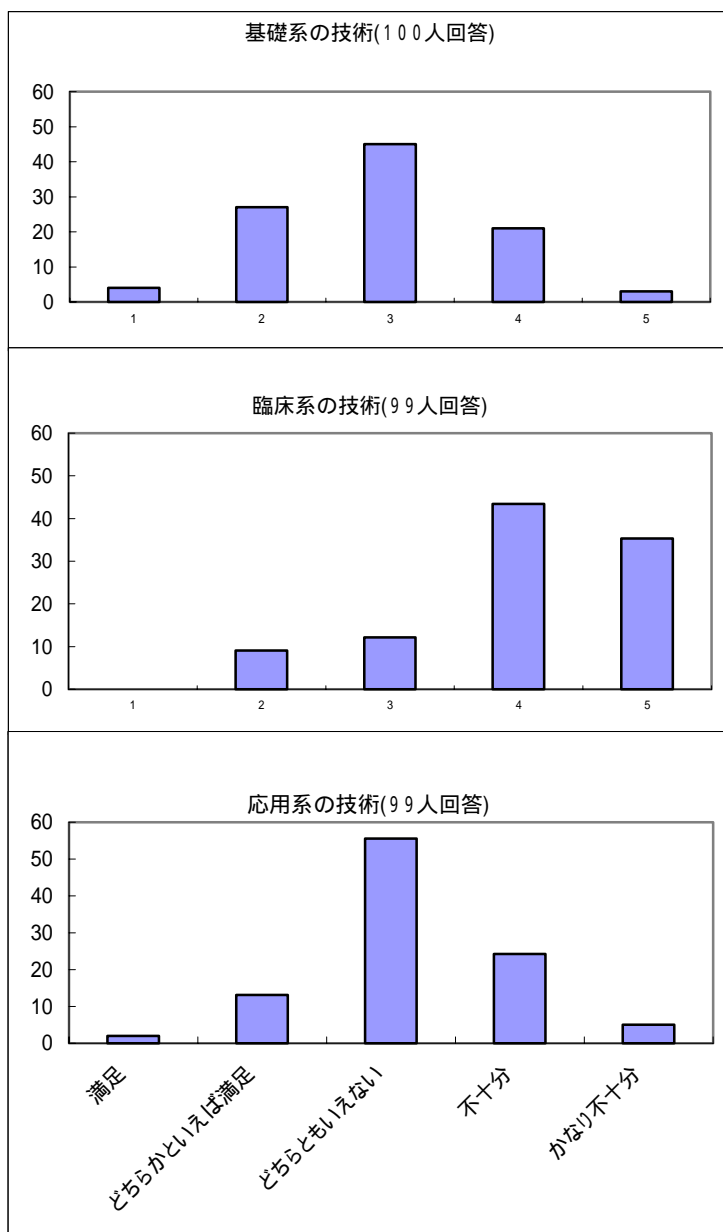
在学中に受けた教育（システム、質、量）についての感想

獣医学的知識の習得について



かなり不十分または不十分と答えた人は、基礎系 21%、臨床系 75%、応用系 20%で、特に臨床系の知識習得についての教育は不十分と感じている人が多かった。

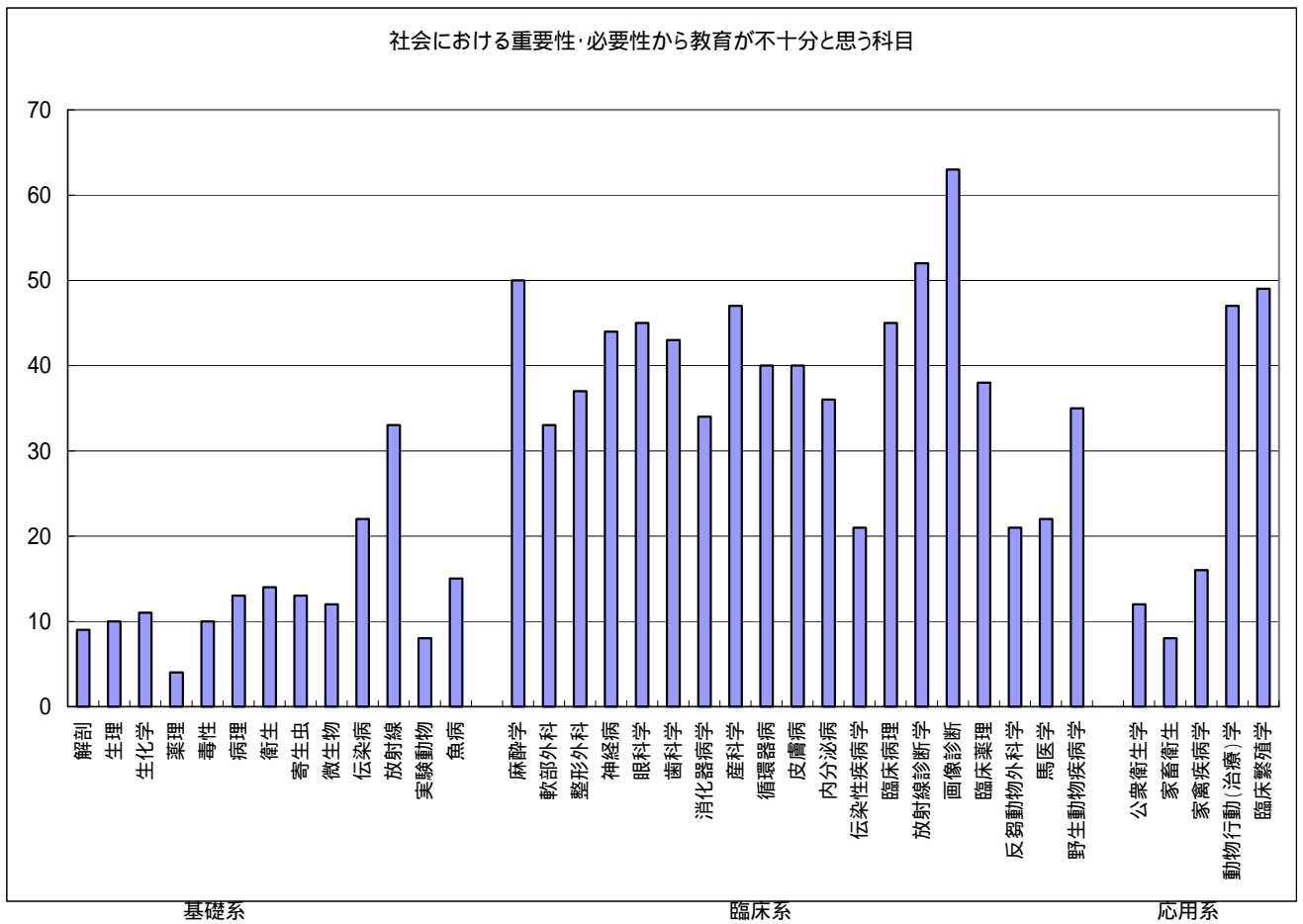
## 獣医学的技術の習得について



かなり不十分または不十分と答えた人は、基礎系 24%、臨床系 79%、応用系 29%で、臨床系の技術習得についての教育は不十分と感じている人が多かった。

どちらかという満足または満足と答えた人は、基礎系 31%、臨床系 9%、応用系 15%で、すべての分野で技術習得は満足している人は少なく、特に臨床、応用系で顕著であった。

社会における必要性・重要性に対して、受けた教育が不十分と感じた科目は？（複数回答）

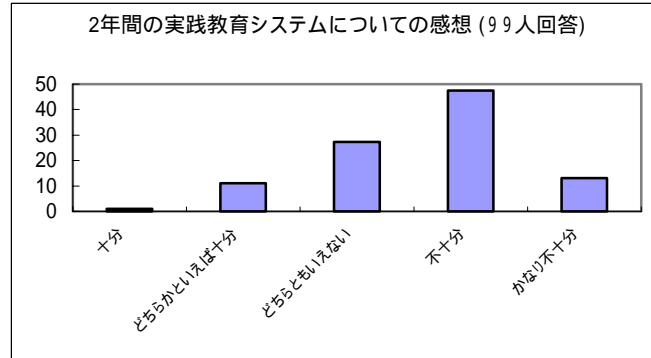


基礎系の放射線、臨床系の多くの科目（特に画像診断）、応用系では行動学と臨床繁殖学が多かった。

## 6年制教育について

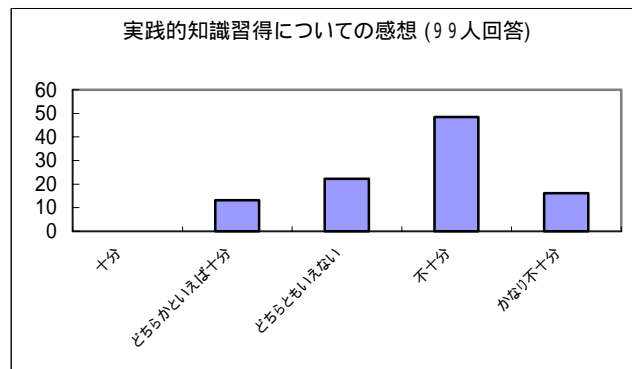
4年終了後の残り2年間の教育投資（時間、コスト）に見合うかという点で、

実践教育システムを総合的にどう思ったか？



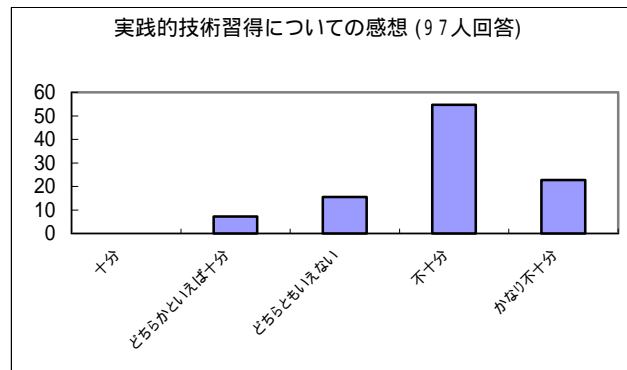
かなり不十分または不十分と答えた人が60%であった。

実践的知識習得という面でどう感じたか？



かなり不十分または不十分と答えた人が64%であった。

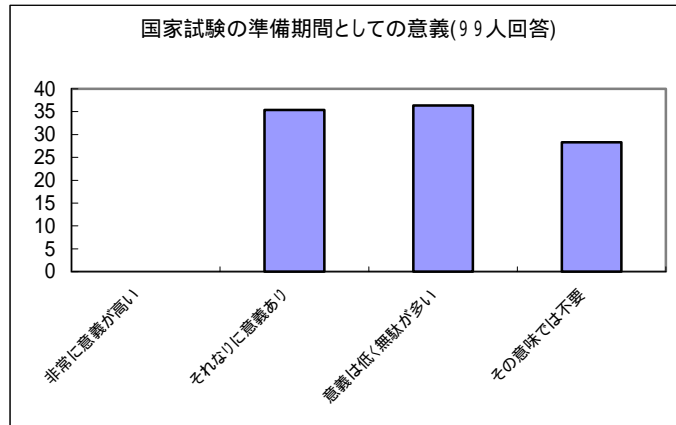
実践的技術習得という面でどう感じたか？



かなり不十分または不十分と答えた人が78%であった。

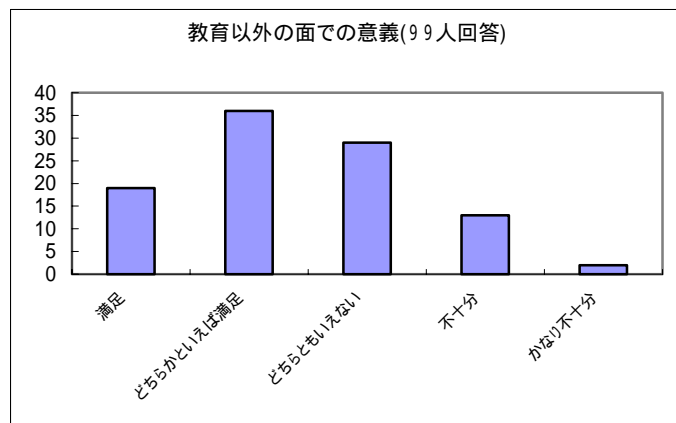


国家試験に必要な教育期間としての意義についてどう思ったか



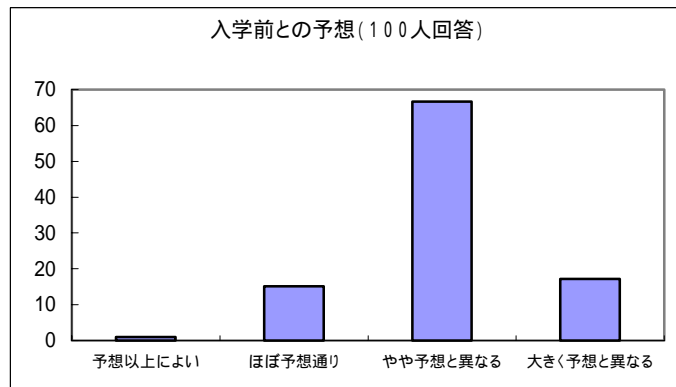
意義は低く無駄が多い、またはその意味では不要と答えた人が64%であった。

教育以外の面(自発的研究、学外活動、就職準備など)を含めて、どう思ったか



不十分またはかなり不十分と答えた人は15%で、満足またはどちらかという満足は55%であった。

6年間の教育内容は、入学以前の予想と比べてどうだったか

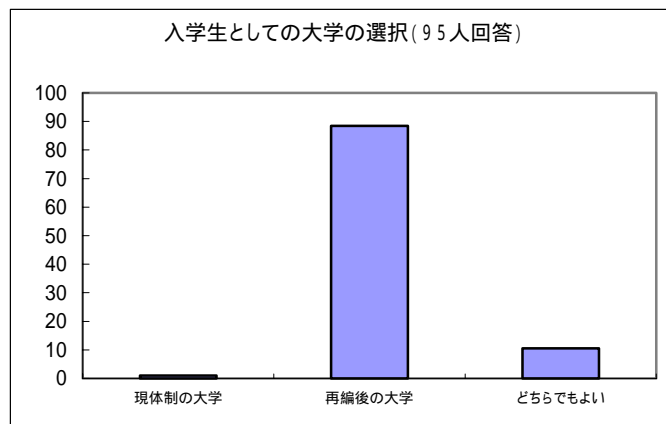


やや予想と異なる67%、かなり異なる17%であった。

### 3. 再編に関する調査結果

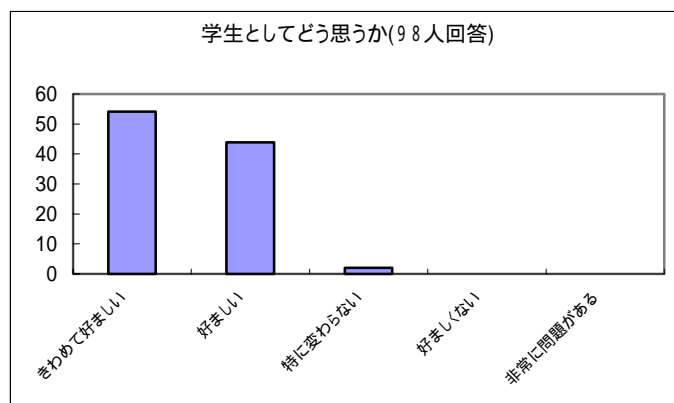
#### 再編について

入学生として、現体制の大学と再編後（教育体制整備後）の大学が選べるならどちらに入学するか



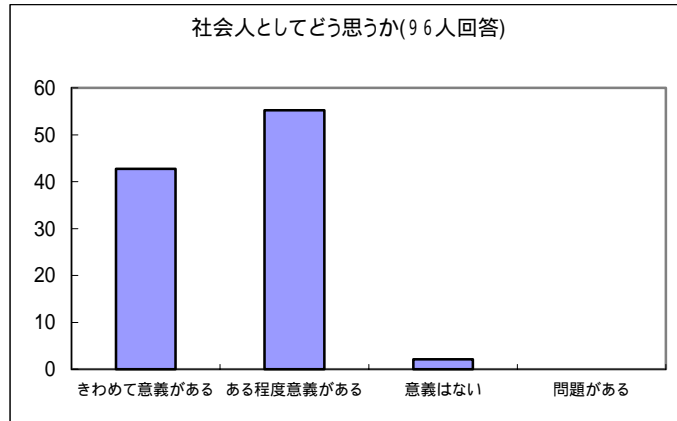
88%の人が再編後の大学を選んだ。

統廃合により教育内容が国際基準レベルになるとして、学生としてその教育を受けることをどう思うか



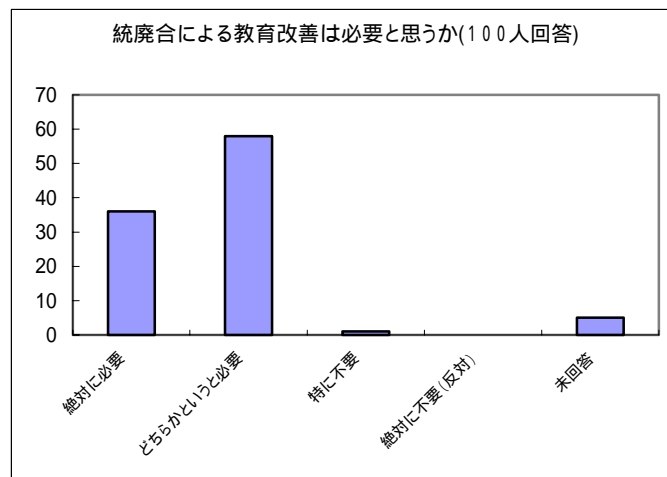
きわめて好ましい(55%)、または好ましい(43%)と答えた人が98%であった。

社会人として、その改善された教育を学生が受ける意義をどう思うか



きわめて意義があるが 43%、ある程度意義があるが 55%であった

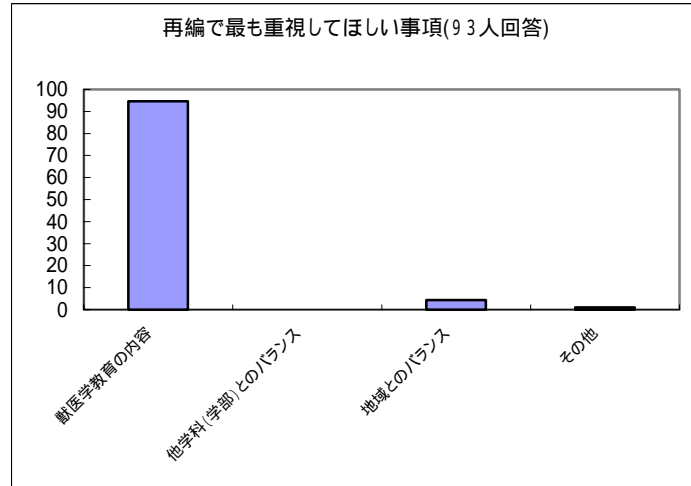
統廃合による獣医学教育改善は必要だと思うか



絶対に必要が 36%、どちらかというが必要が 60%であった。

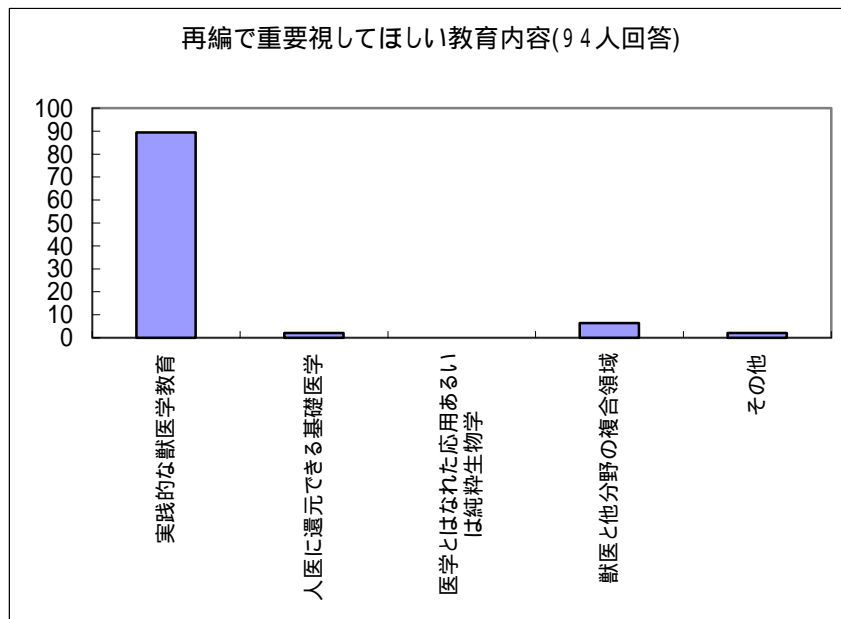
## 統廃合の方法について

再編にあたり、学生として、大学側にどれを最も重視してほしいか  
(2項目以上の選択者は除外)



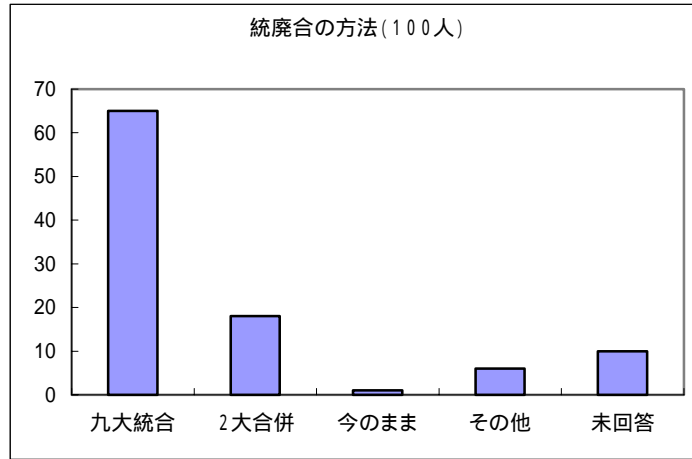
獣医学教育の内容が95%で、他学科(学部)とのバランスを選んだ人はいなかった。

再編にあたり、学生として、どの教育内容を最も重視してほしいか  
(2項目以上の選択者は除外)



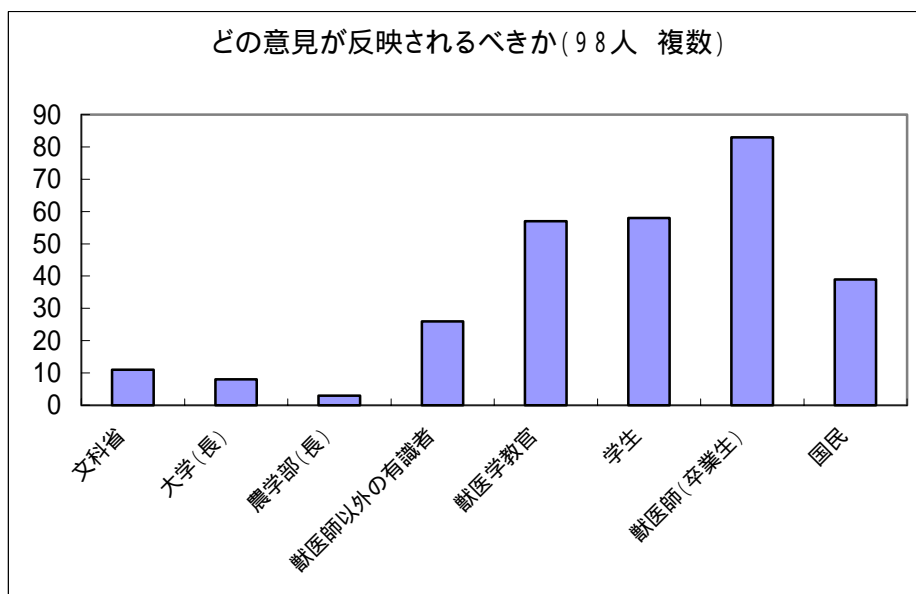
実践的な獣医学教育を選んだ人が89%であった。

大学の統廃合について、どの案に賛成か（2項選択者は未回答に含めた）



九大統合が65%、2大合併が18%であった。

以上の獣医学教育改善などの意思決定においては、どの意見が反映されるのが民主的だと思うか  
（複数回答可）



獣医学教官、学生、獣医師、国民を挙げる人が多く、大学（長）や農学部はきわめて少数であった。

## 4 . 回答者からの意見（まとめ）

### 獣医学的知識について

知識習得については、システム、質、量、すべてに対して意見が寄せられた。特にシステムに関しては、教官数不足、集中講義に依存している問題に加えて、基礎系への問題指摘も意外に多く、そのほとんどが個々の基礎科目の関わり、臨床・応用系へのつながりが意識されていないことへの意見であった。また最近の社会変化をふまえ、免疫学や疫学に関する講座がないことも疑問としてあげられていた。授業内容については、教科書の古さ、実践現場に即してない等の意見に加え、特に最近の卒業生からは、授業内容がある部分に偏りすぎている、興味がわからないとの感想も聞かれた。

### 獣医学的技術について

小動物、大動物ともに、臨床系の実習不足、生体との接触機会の少なさを指摘する意見が多かった。また、スタッフ不足、器具の古さ、加速する生物工学研究技術への対応など、教育資源自体の不備が実習の質に影響している点も述べられていた。共済獣医師は人工授精師免許の自動的取得、研修不足にも触れていた。小講座に所属するシステムは、関連業種に進んだ場合に利点があるいっぽうで、逆の場合の弊害も述べられていた。技術教育で改善を望む点としては、臨床実習時間をもう少し増やすべきではないかという意見が圧倒的に多かった。

### 各科目について

社会ニーズにてらして教育不足が指摘された科目は臨床系が多く、また臨床繁殖学や行動学も多かった。これらの不足を現場の実践訓練で補っていることの問題については、1) 対象が市民の財産（生命体）であること、2) 職場環境（指導獣医師）により知識技術が偏る危険性、および3) これを職場に依存している社会的不利益の3点に集約されているようであった。

### 6年制教育について

現状の実践教育の不備に加えて、全体的に現在のシステム自体を疑問視した意見が多かった。後半が小講座での研究活動中心になるシステムに批判的な意見もあったが、職業教育を充実させるための方法としてはそれを否定するよりも、一般教養から基礎までの期間に実学を組み入れる、あるいは卒後の専門教育システムの整備など、時間幅を広げる対応のリクエストが多かった。また予想以上に、6年中に区切りをつくる、最終的に専門コースを選択するというシステムを希望する声が多かった。

いっぽう（講義実習による）教育以外の面を含めれば、不満足という意見は少なく、満足と回答した理由としては時間的な余裕を挙げる人が多かった。

6年制の内容について入学前の予想と異なると回答した人の中では、臨床の比重の低さ、設備の不備、卒業時の知識技術の不足、いっぽうで授業が少なく時間の余裕がある点に関連した意見が大多数であった。またここでも、一般教養を含めた低学年時の内容が6年一貫のイメージと違うとの意見があった。

## 入学時の選択について

回答者のほとんどが再編後の大学への入学を希望していたが、理由としては実践教育の充実、あらたな科目の受講、教育資源（資金、設備、教育の質）の向上、および取得ライセンスの価値の向上が期待できることが挙げられていた。どちらでもよいと回答した人は、それぞれの体制に意味があること、結局は本人次第であることを挙げていた。

## 学生として

ほとんどが好ましいと回答していたが、可能なら国際水準の高いレベルの教育を受けたい、専門の知識技術への意識が高まる、将来活動の幅が広がるなどが挙げられていた。いっぽう本当に内容が変わるのか、内容が細分化・高度化されシステムが変わらないのは酷ではないかなど、問題を懸念する声もあった。

## 社会人として

意義があると回答した根拠として、獣医師として総合的な知識技術が必要であること、現況では独学偏重あるいは個人能力の格差が社会的な信頼獲得の障害になっていること、教育整備が職場・社会への貢献につながることを挙げられている。また、公務員や企業でも（臨床）獣医師としての能力は必要との意見もあった。

## 統廃合の必要性について

ほとんどの回答者が必要性を認めていた。獣医学に対する社会的要求の高まりと現状教育の不備から改善の必要性を述べた意見が多く、国際レベル以前に国内私立大とも格差がある現状を指摘する意見もあった。地域や大学、財政面のデメリットは、優秀な人材が輩出できれば社会貢献につながり、結果的に地域にも還元されるのではという意見が多かった。

## 大学の統廃合でどの案に賛成か

九大統合への賛成が多く、意見を述べているのはこの案の賛成者が大多数であった。理由としては、2大合併では中途半端で今と大きく変わらない、やるなら4大学統合でないと教育改善の効果は上がらないなどスケールメリットを根拠にした意見が多く、またここでも私立大の変化と地方国立の遅れが指摘されていた。いっぽう2大合併の賛成理由には、4大統合による改善効果が不明、日本と海外の違い等が挙げられ、また九大統合賛成者も含めてきわめて多かったのは、地域の拠点病院、研修施設としてなんらかのかたちで残してほしいという要望であった。

## 獣医学教育改善等の意思決定では誰の意見が反映されるのが民主的か

民主的をどうとらえるのかという指摘もあったが、獣医学に関する教育および社会現場の実態と問題を理解している人、また教育改善の影響を受ける人の意見が反映されるべきだとの意見が圧倒的に多かった。

## 5 . 考察とまとめ

6年制(4+2年を含む)教育を受けた獣医師100人のアンケート回答および意見から、獣医学教育および学科再編に関する問題を検討した。

～教育について～

教育については獣医学的知識、技術、各科目、および6年制(特に最後の2年の実践教育)それぞれについて評価と意見添付をお願いした。

分野別の評価では、特に臨床系の知識、技術習得のための教育が不十分(75、79%)であり、各専門科目の教育についても社会ニーズに比べて多くが不十分であることが示された。職場でこれらを補うには、独学に偏る危険性、患者が実習対象になる等の指摘があり、この分野では高まる社会要求と大学教育との溝が特に大きいと考えられた。基礎と応用についても満足との評価は少なく(5%以下)、基礎科目履修時に臨床・応用との接点に分りにくいという指摘の他、重要科目が学外講師にゆだねられている点、また最近必要性が高まっている疫学、免疫学、あるいは行動学などの体系的教育の不足(あるいは講座がない)などの改善を希望する意見もあった。以上の結果は、社会現場で要求されている獣医学の幅が拡大していること、それぞれにおいて高い専門性が望まれていること、そして現状の教育体制ではそれに十分対応できていないことを示していると思われる。

6年制教育の最後の2年間については、実践教育のシステム、知識習得、および技術習得について過半数が不十分と評価し(それぞれ60、64、および78%)、いっぽうで国家試験のための教育としては過半数が必要以上(無駄が多いあるいは不要が64%)と評価している。すなわちこの結果は、免許取得(国家試験)のための教育期間としては必要以上、実践的な知識技術の習得は不十分という、ライセンスおよびその教育の意義自体にかかわる重大な矛盾を反映したものと解釈できる。

教育システムに対しては、最初の4年間、特に低学年時からの簡単な実習、PBL、あるいは教養・基礎科目の意義向上など、入学当初のモチベーションを維持するシステム導入、いっぽうで研修医制度など卒業後の整備を求めるような、最後2年間の前後に関する意見が多かった。最後の2年間についてはコース選択制等に対応すべきとの意見が多く、小講座制を廃止して職業教育を重視すべきとの意見はなかった。教育(講義・実習)以外の面では不十分(15%)よりも満足(55%)とする評価が多く、これらを総合的に考えると、小講座がコース選択制の代用として機能している、時間的余裕が研究や学外活動につながり学生の要求を満たしている、そして社会に出ると職業教育の不備が体感される、などが実態としてうかびあがる。また入学前の予想と異なる(84%)と評価した理由のほとんどが、医療教育の不足あるいは卒業時の知識技術不足に関連した内容であり、社会人獣医師としての教育評価と類似していた。このことは、市民感覚(入学前)と実社会で要求される活



動（卒後）が比較的近く、社会が求める（あるいは想像している）のは主に実学であり、その教育に大学が必ずしも十分に対応できてないことを意味しているのではないかと思われる。ただし今回の調査では、質問は実践獣医学領域が中心であり、また対象者も公衆衛生や臨床など現場獣医師が中心で、企業を含めた研究者が少なく大学院生や文部教官も含まれてないため、研究教育についてはさらなる評価が必要と思われる。しかし少なくとも、教育の質、量、幅すべてに強い要求があり、研究、公衆衛生、各種臨床に高いレベルで幅広く対応できる、コース選択も視野に入れたスケールの教育体制が望まれているように思える。

#### ～再編について～

教育改善が直接影響するのは未来の学生であるため、その立場として大学を選択してもらった結果、88%が再編後の大学への入学を選び、学生として（98%）、あるいは社会人としても（98%）、改善された教育の意義を認めていた。また、統廃合のメリット、デメリットを考慮した上で統廃合の必要性を聞いたところ 96%が必要性を認めていた。主な根拠は社会ニーズの高まりや現状の教育体制の限界、すでに地方大学と国内他大学との教育環境の格差が拡大している現状、一時的、地域的なデメリットは社会貢献で還元できるといった内容であった。

しかしこのような教育改革では、当事者の枠が獣医学関係者以外にも広がり、学部、大学、さらに地域という視野で論じられるため、教育の主役である学生の立場が軽視されることもないとはいえない。そこで再編にあたり学生として何を最重要視してほしいかを選択してもらったところ、獣医学教育の内容が95%、地域とのバランス4%、他学科（学部）とのバランス0%という著しく偏った結果が得られた。この傾向は全ての年代を通じて同じであり、おそらく（現役学生に）将来聞いても同じことが予想される。改革では組織論を含めた考慮事項が増えるのは当然としても、この偏った結果は、すべての事項が同列に論じられ、一義的な目的や意義が縮小されることの問題が大きいことを示唆しているように思える。

また獣医学領域内においても、獣医学の意義、改革の必要性が強調されるあまり、関連領域や付加価値が次々に列挙され、目的の焦点がぼやける傾向がないとはいえない。そこで教育内容についても同様の選択をしてもらったところ、実践的な獣医学教育を選んだ人が89%という、やはり偏った結果が得られた。最重要事項だけの選択であり、それぞれの項目が割合に応じて意義が低いという解釈はできないが、ライセンス教育機関の一義的な役割を考えれば当然の結果かもしれない。少なくともこれがアカデミズムにうもれて比重が下がることは問題であるように思える。

統廃合の方法論を考える場合、実際に教育を受けた獣医師であれば、少なくとも獣医師外の大学関係者あるいは一般市民よりも教育の不備を理解し、またどのような方法なら教育改善効果が上がるかも推察できると考え、今現在挙げられている案の選択を求めた。回

答では九大統合案が 65%で（回答者の 72%）もっとも多く、獣医学教育の幅、質、量、それぞれに不備が指摘された結果を考えれば、このスケールでないと対応できないと判断されても不思議ではない。他方、4大統合の意義を疑問視する声、地域に施設を残してほしいとの要望もあり、2大合併も 18%が支持していた。ただし、判断材料が少ないため選択できないという未回答者も多く、この問題に関してはさらに利点・欠点を明確にして意見を集め、できるだけ多くの獣医師や国民の理解と支持を得ることが必要と思われる。

～教育改善の意思決定について～

国立大学は文部科学省および大学関係者が運営の主役であり、いっぽう教育サービスを受ける側、獣医学の恩恵を受ける側の主役は国民である。そこで、獣医学教育改善の意思決定では誰の意見が反映されるのが民主的かという選択を求めた（複数回答）。その結果、獣医学教官、学生、および卒業生が過半数を超え（それぞれ 57、58、および 83 人）、獣医学教育の実態を知り、その影響を受ける人の声を反映すべきとの意見が大多数であった。この種の問題では大学関係者の意見が当事者の意見となり、その合議によって決定されるのが実情なのかもしれない。しかし、獣医学教育の改善に関しては全ての獣医師の重大な関心事であり、国民の利益に直接関係する問題でもある。この重要な問題が、農学部あるいは大学全体の問題の一部として扱われる中で獣医学教育関係者の意見が矮小化され、獣医学を必要とする国民の意向が届かずに意思決定がなされることが果たして正しいことなのかは疑問である。今回の調査でもその点を懸念する意見が多く、意見が反映されるべき当事者として大学（長）や農学部の選択が少ないという結果にそれが現れているとも思える。もし実際に、そのような立場の関係者が少数で協議を進めるのであれば、少なくとも全ての情報を公開してオープンな議論とし、獣医師をはじめとする国民の理解と支持を得ることが最低限必要ではないかと思われる。

## ( 付録 ) 7 . 回答者からの意見

### 回答者からの意見 ~ 知識習得について ~

基礎領域と臨床・応用との接点がわかりにくい。( 7 名 )

#### No.15 小動物臨床

量的には充分で質的にも高度な授業がたくさんあったが、システムが官僚的(縦割り)でその目的がはっきりしない。現場の診療にはすべての知識が必要とされ、科目はそれぞれに接点を持つ。大学では学年ごとに科目を学び(暗記し)、国家試験前に自力で接点をつくる。非効率的であり、個人にとって興味を持って学習法ではない。

目的は何なのか?動物のため、人のための獣医学ならば、まず問題を提示し、その解決に必要な知識を付随させていく学習法が大切。それには教官も深い知識と交流が必要になる。何のための知識なのか分からないまま覚え込ませるのが私達の受けた教育。

#### No.34 小動物臨床

基礎の講義時間、内容については満足できるものであったが、臨床へ応用していく知識という視点に欠けた部分があるように思われた。

#### No.42 小動物臨床

本来基礎科目は、実践現場では臨床、応用と知識の交流が生じるものであるが、学生時代では、各基礎科目が臨床、応用系にどう派生するかとらえにくいと思う。基礎の重要性を認識させ、興味を抱かせ、さらに応用まで発展させる指導法を探るべきだと考える。今のままでは基礎は忘れやすく、応用系にスムーズに移行しづらい。臨床、応用系も早い時期に組み込まれていると時間をかけて学べるし、基礎を含めた獣医学を体系的にとらえられると思う。その意味で、基礎系は質とシステム、臨床系はシステム、質、量いづれも改善の余地があると思う。

#### No.70 団体職員

基礎と臨床のつながりをもう少し意識した内容に作り変えていくべきと思う。解剖と画像診断、生理・薬理と麻酔・輸液などのつながりは、一年次からやってもよいのでは。

講義、実習、教官、講座が足りない。( 7 名 )

#### No.34 小動物臨床

基礎に比べ臨床系は、膨大な内容(多種の動物について他分野の疾患の診断治療)の教育を少数の講座、教官に担わせており、十分な質量の教育を行うことはとても無理なシステムになっている。

No.52 元公務員

主に臨床面で不満がある。臨床に関する授業時間が少なく、授業内容に生体と接する機会が少ない。講座に所属している者のみのための臨床教育との感があり、基礎系に入れば在学中の知識、特に臨床面での技術は0に等しい。

入学してすぐに受ける教育内容は獣医学とは異なるものであり、多くの期待に満ちていた学生を失望させるものだと思う。一年生の授業こそ獣医学の基礎を多く取り入れるべきである。その場（施設）と教育内容（教師および教材など）が提供できなければ、教育機関を改善していくことが必要。

No.76 県職員 衛生

私立大学に比べると教官、研究室など圧倒的に少ない。

No.38 県職員（衛生）

公衆衛生獣医師として働き9年目になるが、その間特に感じたことは口蹄疫、BSEの発生で水際作戦しかとれていない日本の現状を目にしたときのさびしさである。これは大学の講座に“疫学”が存在せず、この道のエキスパートが日本に少ない事が原因の1つではなかろうかと思った。

No.71 製薬会社

基礎系：特に生理、生化学の教科書は立派だったのに学生が理解していなかった。ただし教官にも問題ありか。

応用系：免疫に関する体系的なコマ（免疫学講座）がないのは致命的。衛生に関しては免疫は必須の知識であり、多くの獣医師がこの方面の仕事をしているにもかかわらず。

講義の内容に偏りがある（6名）

No.1 研修医

広く一般的な知識習得としては、今の教育のままでもある程度満足できる。ただ教官数が少なく、基礎、臨床ともどうしても教官の得意な分野へ帰属したり、内容に偏りがあったように思う。質については個々の教官の差が大きく、率直な学生からの評価があってもよいのではないかと思う。

No.31 小動物臨床

基礎、臨床にかかわらず教官によって差が大きい。臨床については、知識、技術それぞれ実際に病気を診ている先生に教えてもらえたらもっといいのではないかと思う。

No.39 県 嘱託

使いづらい教科書が多く、最後まで授業の流れがつかめない授業も多々あった。先生の得意なところばかり深くやって、そうでないところは全くやらない部分もあつたりとかで、系統立てて知識を身につけていくという感覚がなく、おもしろ味をあまり感じられない授業が多かった。

No.35 県職員（農政）

授業により、基本の部分を丁寧にしっかりと教えられる先生もいれば、ただ教科書を読み流すだけといった感じの授業をされる先生もいる。大学生ともなれば自分で勉強していくことが当然かもしれないが、講義の中で理解ができれば、その後で学んでいくことよりもスムーズになるのではと思う。逆に単調な講義では興味も失いがちになり、その後へとつながりにくいような気がする。

实用性に乏しい、古い、など（4名）

No.18 小動物臨床

卒業後の進路で満足度は変わると思うが、臨床現場に即した内容であって欲しかったと思う（卒後、大学の教科書を開くことはほとんどない）

No.43 小動物臨床

臨床系の知識技術は外では不十分でほとんど役に立たない。臨床を少なくとも、小動物、産業動物の外科、内科に分離し、最新の知識、技術を教えてほしい。内科学全書のような診療の傍らにあるような教科書があってもいいと思うのだが。

No.53 小動物臨床

基礎系は内容としてはまあ十分かなと思う。ただし獣医学というよりは人医学の面からの内容が多かったように思う。獣医学の専門書の不足を感じた。

臨床については内容が古すぎる。今は改善されているかもしれないが、自分たちが学んだときは教科書の古さに学生ながらも驚いた。今現在使われていない薬のことや技術のことを習っても意味ないと思う。

集中講義への依存が問題（2名）

No.33 市職員

履修範囲が終わらない教科があった。繁殖学は集中講義だけで終わった。私立の学外教授による画像診断学の講義はすばらしく、このような講義の聞ける私立の学生をうらやましく思った。

No.74 県職員 衛生

在学中、生化学、繁殖学などは他大学の先生による集中講義で、非常に習得しにくかった経験があった。臨床系は在学中に十分マスターするのは不可能だと思われる。公衆衛生分野は、社会に出て感じたことだが範囲が広く、大学での講義はあまり役に立たなかったと思われる。

他の大学との差（2名）

No.66 小動物臨床

小動物臨床に従事しているだけに、かなり大学の教育不足は体感する。また各種セミナーや学会における

先生方の面々を見ても地方大学のマイナー状況を感じるのが常である。では首都圏の大学のように設備も充実し、ユニークかつ実力ある講師を揃えていれば即戦力になる獣医師が誕生するか？答えはNo だと思う。そこには常に本人の意識が大きく、重要な意味があるのだと思う。それでも環境が人を造るといわれるように、大学も講師も学生も皆が獣医学に対する意識を持てば状況はよくなるように思える。

#### No.69 小動物臨床

卒業して私立大学の臨床講座出身の先生や、研究生となった経験のある方と話すると、自分たちとのあまりの経験レベルの差に愕然とする。例えばアメリカの大学はこんな感じだと・・ただあこがれていた世界がそこには（私立）あるような。

#### その他

#### No.8 共済

知識としての教材と人材は満足いくものだったと思う。

#### No.14 小動物臨床

獣医学の範囲が広いため、すべての知識を満身に習得するのは難しい。ある程度専門に分かれるほうが満足する知識を得られるのではないか。

#### No.17 小動物臨床

基礎、臨床系とも講義の内容については満足。在学時の自身の学習に対する取り組みを考えれば意見はいえない。

#### No.26 小動物臨床

卒業後の進路によって必要な知識が異なってくるので、結果的に浅く広い教育になってしまっていた。現体制ではやむをえない状況であろう。

#### No.82 小動物臨床 回答：臨床不十分 応用どちらかという満足

在学中は気付かない事であるが、卒業して現場に出ると社会のニーズやまた獣医師として不十分であったと感じることが多い。

#### No.84 製薬会社

知識の習得に関しては学生の努力と自覚不足が一番の問題だと思う。あえてシステムを問題にすれば、そういう学生に簡単に単位を取得させ卒業させてしまうシステムに問題があると思う。

#### No.92 小動物臨床 回答：臨床系のみどちらかといえば満足

自発的な研究（外科講座）を含めれば、臨床の知識習得は満足。

## 回答者からの意見 ～技術習得について～

講座所属の利点や問題（5名）

No.14 小動物臨床

外科系の講座に所属していたおかげで、働きはじめてすぐに役立つ技術をもっていて助かった。その分基礎や応用系の技術習得は不十分であった。

No.70 団体職員

臨床は外科講座に所属していたので満足だったが、基礎の人にはどうか。

臨床は同一個体の変化を経時的に追っていくものなので、限られた時間（2週間）での実習は不十分であろう。臨床以外の応用系実習の記憶は完全に消失してしまった。わずかに鶏肉の残留抗生物質の有無を調べる実習があまりに高度で難しかった思い出がある。

No.82 小動物臨床

特に卒論について5～6年時にかなりの時間を割くが、その後その分野で働き意義があればいいのだが、（論文を書く技術など）限られた部分以外は無駄が多い気がする。応用は自分が公衆衛生講座にいたのである程度詳しいつもりである。

大動物臨床に関する問題（3名）

No.5 共済

獣医師免許を取れば自動的に人工授精を行う資格も得られる仕組みになっているが、それに関する教育は講義、実技ともに受けてはいない。人工授精師免許の取得のための講習内容と大きな差がある。

No.64 共済

小動物に比べ大動物に接する機会が極端に少ないと思う。臨床実習でも術者となる機会は少なく、傍観する事が多かったと思う。実際に就職し、現場と学生実習とのギャップに驚いた。

No.65 共済

当時のカリキュラムに組み込まれていた臨床系の実習は小動物中心であり、大動物を臨んでいた私には意味がなかった。自分で学外実習および月1回の佐土原診療などで大動物に接していかなければ、大動物臨床の基礎も学べなかったと思う。当時臨床系の先生は小動物の先生が中心であり、小動物臨床を目指す学生には良かったと思われる。

実習不足（時間の不足：同様意見6名）

No.17 小動物臨床

臨床系の実習についてはもう少し時間を充てた方がよい。経過観察から問題が浮かび上がることも多く、

なにより臨床自体が不条理な要素を含んでいるため、合理的、現実的な教育では対応に限界がある。

No.33 市職員

繁殖学は1週間程度の実習だけで終わった。内科学は大動物専門で小動物はほとんど実習しなかった。基礎系の実習は色々やらせてもらったが、技術の習得となると不十分だったと思う。

実習不足（教育資源について）

No.34 小動物臨床

臨床系の実習については、多岐にわたる内容を少人数の教官が多忙な診療と並行して行っている。また院生や研究生が少ないこともあり、質、量ともに十分な技術習得を学生が得られるような状況ではない。

No.75 県職員 衛生

実習については全ての科目について実験材料が少なすぎる。

No.39 県職員 嘱託

大学の外科実習が町の小さな開業医よりもおそまつな器械をよせあつめてやっている様ではだめだと思う。最低限の設備でよいのもう少しちゃんと整った環境で実習を行ってほしい。

実習不足（システムや内容について）

No.39 県職員 嘱託

臨床希望だったので臨床技術には大変興味があったが、全体的には“技術は下働きをしながら見て覚えよ”という雰囲気であったと思う。学ぶ者としてはこの意識でいいと思うが、教育する側はもう少しカリキュラム等を設定し、どのレベルを求めるのかを明確にしてほしい。

No.59 小動物臨床

臨床技術では基本的なことを習うのだが、方法はもちろん“そこから何を得られるのか”を教育すべき（獣医としての力量が問われるのはそこだが）。

No.66 小動物臨床

技術の習得は当然ながら大学教育で行うべき部分と、それぞれが各分野についてから習得すべき部分があると思う。それらの分離を含めたカリキュラムの再考を望むラム等を設定し、どのレベルを求めるのかを明確にしてほしい。

No.42 小動物臨床（実践的な基本技術が身につけていない：3名）

技術については、獣医師以外でもできる簡単なものから、手術のように難易度が高いものもあるので、必



要性の高い技術は基本レベルから時間を使って身につけたかった。研究室に所属するまでの基礎実習で身についたものが少ないのは、反復の不足もあるが、改善は難しいと思う。しかし技術をどう利用し、どう活かすかは最低限広く知る必要がある。臨床は多くの技術を自ら実施しなければならないことがほとんどであるが、学生時代は立場上限界がある。ただ技術が未熟だと判断を誤ることも多くなるので、診断に必要な技術は体系的に教わる必要がある。

#### 実習の問題（基礎や応用）

##### No.9 県職員 衛生

現在公衆衛生獣医師としての職務であるが、在学中に即現場で実践できるぐらいの知識と技術の習得が可能のように教育を受けられる大学が理想的だと思う。

##### No.39 県職員 嘱託

基礎系の技術習得が不十分なのは自分自身のやる気の問題であったように思う。

##### No.71 製薬会社

基礎：解剖、病理、微生物の基礎は習得できたと思う。生理、薬理、遺伝子関係の実験は進歩が早いので、教官がどれだけ先端の仕事をしているかで学校により大きく違うだろう。これらは On the Job Training に依存するしかないかも。

##### No.99 小動物臨床

基礎：技術といっても研究に必要な手技を覚えるのみだったが、科目担当教官の熱意の差により、基礎系科目の技術習得には大きな違いがある。

応用：公衆衛生、家畜衛生についてだが、器具の操作、定められたプロトコールに従って検査をすすめていく事で論理的な思考を身につけられた。

#### その他

##### No.8 共済

臨床系の技術というのは、限られた実習等の時間で習得できるものではないと思う。それを在学中に得ようとするのは元来無理なことではないか。

##### No.74 県職員 衛生

技術の習得については基本的なことが学べればよいと思う。卒業後それぞれの分野でさらに勉強していけばよいと思う。

## 回答者からの意見

### 各科目について、社会のニーズを満たしているか？今の教育で問題はないか？

教育（資源）の不足

No.34 小動物臨床 回答：主に臨床系と行動

臨床系については細分化した科目についての専門的な知識の習得が必要とされているのに、少人数の教官が全ての内容を指導しなくてはならないため、系統だった教育をほとんど受けられなかった科目もかなりある。卒業してから独学で学ぶことの方が多くなってしまう。

動物の生命を預かる臨床においては現場での訓練の前に大学での十分な知識・技術の習得が不可欠。講座教官を増やして専門家による正しい知識・技術を学べるようなシステムを切望。

臨床教育については大規模なシステムの改善（ハードソフト両方）が必要。今のままでは国民が必要としている獣医師の育成はできていないのではないか？

No.78 県職員 農政 回答：毒性、寄生虫、繁殖など

授業が中途半端に終わったものやほとんどなかったものもある。臨床系に関しては社会においてどの程度必要なかよくわからない。繁殖はとても重要だと思うが、集中講義だけで終わった。

No.84 製薬会社 回答：毒性 放射線 実験動物 臨床病理

これらの科目は社会に出てから本格的に勉強した科目である。臨床の各科目についてはある程度進路が明らかになった時点（5，6年）で講義実習を受けられる様にした方が身につくと思う。5，6年生時にほとんど講義がないのはおかしいと思う。

現場の訓練に依存している点について：6年制のままで獣医学科が存在するのであれば、その間に十分なトレーニングの時間を設けるのは当然だと思う。企業・研究所に就職した場合、臨床的な技術は基本的なこと（注射、採血、簡単な手術、麻酔）しか求められない場合が多いが、このようなことに対しても就職先でのトレーニングに依存しているケースがほとんどだと思う。本来大学で行うべき訓練を就職先のお金を使って行うのは社会的にも不利益だと思う。今後は訓練を必要としない人材を雇う方向に動いていく可能性も高いのではないか。6年制で行うのであればその期間内に、それが無理であれば卒業から就職までの間にトレーニングの期間を設ける制度を作った方が社会的に貢献できると思う。

臨床繁殖学が集中講義であること（同様の意見8名）

No.3 県職員（衛生） 回答：臨床繁殖

臨床繁殖学の先生がいない。講座がない。授業がない。

No.76 県職員 衛生 回答：伝染病、繁殖、臨床系

繁殖学、伝染病など重要と思われる科目が集中講義であることに納得がいかない。

臨床系の科目は使用されていた教科書もかなり古く（特に外科）改訂などの必要も感じている。

#### 検疫や伝染病に関する意見

No.1 研修医 回答：主に臨床系と応用系

応用分野では、近年のエキゾチック動物の増加により、ズーノーシスや検疫といったことに対する、より実践的な教育が受けれたらと思う。

No.6 開業（小動物、大動物） 回答：主に臨床系

ペットの種類の多様化から人畜共通伝染病の多様化や輸入動物からの悪性伝染病の進入の危険性がますます高くなる現状では、大学の従来の教育だけでは不十分。

No.18 小動物臨床 回答：伝染病 臨床系

伝染病：社会における獣医師の役割は大きいですが、在学中は危機感を覚えなかった。

#### 現場での実践獣医学補足が独学（我流）に偏る問題（同様意見6名）

No.99 小動物臨床 回答：実践訓練に依存するのに問題があるのは臨床系科目

社会（臨床）現場においては、臨床科目についてはすべて、1）基本的な知識の量と質、2）経験に裏打ちされた技術をとまっていなければならないと考える。実践訓練では師事する先輩上司獣医師の主観に頼らざるを得ず、偏った技術と知識の習得しか期待できない。獣医学教育は、ある突出した職人芸を目指すものではないはずだから学校教育に期待する。卒後体系的教育を受けられる様に、臨床科目については一般～高度医療研修制度を教育機関として整備すべき。

No.18 小動物臨床

指導者により習得する知識・技術に大きな差が生じる可能性がある。

#### 患者相手の実践訓練が問題（同様の意見4名）

No.1 研修医

具体的に卒業後、臨床、特に外科的技術を習得する場合は現在ほとんどなく、多くの Vet が自分で開業した後に本を参考に初めて手術を行うといったことが現状ではないか。米国ではインターンやレジデントが執刀し、学生は縫合や簡易な手術をレジデントの指導のもと行うことができる。またレジデントはより困難な手術に教官指導のもと自ら執刀し経験を積むことができる。つまり日本では、一度も経験したことがないことを指導者不在のまま自分自身で習得していくしかないのに対し、米国では卒業前後にかかわりなく希望する者は技術を習得する場が与えられている。また獣医師が相手にするのはやり直しのきかない、飼い主も存在する、生きた動物であるのに、現状ではあまりにも無責任すぎると思う。

#### 基礎系科目の問題 ～応用との接点が不明～（5名）

No.43 小動物臨床 回答：基礎系 臨床系 応用系（行動、繁殖）

基礎系：臨床へどの様につながるかという部分が不十分。基礎でも臨床で遭遇する頻度や診断治療等をいれてほしい。

No.52 元公務員 回答：臨床系

社会に出てからの実践に備えて、基礎を学んだ後の応用として各学問が別々でなく、流れのある教育がもっと必要ではないか。例えば臨床だと、症状から検査、投薬、予後観察か予想というように全てを一人がデモンストレーションする授業があった方がいい。知識としてでなく、即、獣医として使える教育を。現場での実践訓練は大学で基礎教育をたたき込まれた後に経験数を多くしていくためのものであり、現場のみに依存することは各現場での我流を認め、技術、知識においての差を大きくし、とすれば獣医師の質を疑われることにもなりかねない。

No.70 団体職員 回答：生理 生化学 寄生虫 伝染病 画像診断 麻酔 臨床薬理

臨床については、レントゲン、超音波、MRIなどの画像診断を基礎の解剖に組み込めないか。海外では解剖学者の手によるそれらのアトラスが多数ある。臨床現場ではじめてそれらをひもとくのではなく、一年次からそれを利用してみては。麻酔も難しいと思うが、あえて基礎における生理、薬理あるいは臨床薬理をきちんと大学で学んでないことの方が恐い。今はわからないが、在学時には抗生物質の薬理についてほとんど習った記憶がない。

その他

No.14 小動物臨床 回答：主に臨床系

開業現場での勉強も大事だと思うが、はじめから知識があればと思うことも多い。科目自体を統合したり、分化する必要があるのではないか。またスライド式に役職が上がる制度が教官の教育意識に影響しているようにも感じる。大学では重症例が多く、開業現場で多い疾患の診断や治療があいまいになっていた感がある。

No.15 小動物臨床 回答：主に臨床系

現場では“食欲がない、痒がる、眼が赤い、どこか痛がる”そこからスタートする。教育は～病、～病と各論から始まり終わる。より現実的な、より実践的な教育を望む。

No.82 小動物臨床

机上のみの教育が多いと感じる。獣医師として動物にからめて興味を持てる実践的な教育にして欲しい。臨床の各分野はやはり特殊な病院や研究施設に行かないと習得できない。大学病院での実習、研修を増やしてほしい。野生動物を目指したい人も入ってくるのでフィールドワーク等の充実も必要。また全部習得するというのではなく、専門医養成なども考え、選択、専攻できるようになれば良いと思う。

## 回答者からの意見 ~ 6年制教育について ~

6年制への対応が不十分、今の内容なら短くてよいなど(7名)

No.83 県職員

現状のカリキュラムなら6年でなく5年でいいような内容である。

大学のスタッフは全体的に少ないため、学生の教育に、研究に十分答えられる体制ではない。

今どき30人の学生では大学は成り立たない。すくなくとも90人もしくは100人でそれに妥当な教授スタッフと新しい体制とすべき。

No.76 県職員 衛生

実際は授業の空き時間等も多く、4年間で十分だったのではないかと思ったこともある。しかしそういった空き時間を利用して臨床の実習に行くなり、何らかの行動を起こさなかった自分自身も悪かったと反省している。

No.20 県職員 農政

現在の6年間のカリキュラムでは4年間でも十分ではないかと感じさせられた。

No.14 小動物臨床

獣医学は基礎系、応用系、さらに臨床系は小動物、大動物に分かれ、それぞれがかなり分化してると思う。これらすべてを学ぶには6年は短く、逆に今のカリキュラムで学ぶ知識や技術なら密度が高ければ4年間ぐらいで習得できると思う。早い段階からそれぞれの専門に分かれて講義を受ける、一般教養を減らすなどすれば密度が高くなる。

No.82 小動物臨床

5~6年時の卒論作成のための膨大な時間はかなり無駄が多い気がする。医学部と同様に博士課程において(自分が進んだ道で)作成すればよいと思う。5~6年時にもっと充実した臨床教育ができれば、低学年時の基礎教育も余裕が出て充実すると思う。

No.71 製薬会社

実践的知識を不十分と答えた理由:ほとんど研究室での実験ばかりだったので。これでは他学部の修士の学生と変わらない。

No.86 小動物臨床

4+2年制から6年制に移って間もない頃だったせいか、ただ延びただけでは?と感じた。6年一貫になって学生の緊張感がなくなったと教官がいわれていたが、実際のんびりしていたように感じる。医学部とは相当な差があると思う。医学部なみの6年制を採用しても中身が伴わなければ、期待して入学する学生

にとっても失礼きわまりない話であるし、税金の無駄遣いに等しいと思う。

卒後教育制度を希望（3名）

No.26 小動物臨床

日本の獣医は“農”に対する貢献度が大きいので社会全体にみると臨床獣医師（特に小動物）のニーズはまだそれほど高いとは思えない。6年制教育の中で臨床などの応用獣医学を強化するのは限界があると思う。卒業後のインターン制の導入や専門医制度を設ける必要があるかもしれない。

No.58 団体職員

卒業してからよく思うのだが、獣医学教育にもインターン制があった方がよいと思う。

教育システム（コース、4+2年制度など：7名）

No.17 小動物臨床

臨床系を目指す学生はもう少し時間が増えると楽であるが、公務員志望の学生にそこまでやる必要があるかは疑問で、個人的にはライセンスを細分化する時期に来ていると思う。教官側も臨床志望から公務員志望まで多様な要求（熱意の差）に応えるのは困難であり、単に評価を厳しくするだけでは血の通わない講義・実習になる。今のシステムでは最大公約数をとった結果“獣医の卵”しか作れてないが、社会は“獣医のヒヨコ”を求めている。

No.36 県職員（衛生）

本人の主体性こそまず問われるべきと思われる。その上でプラス2年間、その学生が希望するメニューについて大学側が提供できる体制になっているかが問題である。在学中においてはその両者についてそれぞれ問題があったように思う。

No.84 製薬会社

5、6年次が実践的な獣医学を習得させるための2年間であるならば、その前の4年間に獣医学の全般かつ広範的な知識習得を全て終了させ、この時点で最初の進路選択を学生にさせるべきだと思う。その選択した進路に適した実践的な学習を習得させた方がより効率的だと思う。他学科と同様に最初の4年で学士を終了させ、その後2年あるいは4年間かけて専門分野の教育を受ける2段階のシステムにした方が、今の社会に適した形になると思う。一度入学してしまえば6年間在籍できて免許が取得できること自体が、現状の獣医師の質の低下の原因ではないかと考える。

No.91 小動物臨床

医学部、歯学部と同等、もしくはそれ以上の学力を有している学生が獣医学科に進学し、6年もの長い教育に見合った学力を身につけられているのか。統廃合が単なる数合わせになってはいけない。個人的な意見は以下の通り。

臨床に進まない学部学生は4年で学士を与え卒業させてしまう。研究希望者は他の大学院への進学も許されるし、公務員希望者は他の学部学生と同じ条件で就職可能。残り2年間はより実践的な臨床教育を徹底的に実施する（少人数教育が可能となり臨床系教官が少なくても対応できる）。将来的には欧米のように大学院大学を目指す（法学部でロースクール設置の準備が進んでいるが、獣医学部でも学士入学を基本とする独自の獣医学教育システムを再構築できればよりよい獣医学教育が可能となるのではないか）。九大へ統合した場合、当分の間、開業獣医師も臨床教育に参加し、意欲旺盛な学生を落胆させないまま卒業させることに力を入れる。

No.100 小動物臨床 回答：不十分

6年間の教育のうち、後2年間は各講座の雑務と卒論を書き上げるために費やされてきたように思う。もちろん現在の小動物臨床の仕事をするのに良い経験ではあったが、2年間で自分が自信をもって得られた知識技術は無いと思う。

大学の再編をするのであれば、6年間のうち前4年で国家資格を、残り2年で専門のライセンスを得られるようにしてほしい。

No.1 研修医

まず、第一に米国の学生のほとんどが臨床を目指すのに対し、日本でははっきりと基礎と臨床に分かれてしまっている。宮大では4年時の講座決定後は自分の講座での勉強が主体となり、その分野は十分な教育がなされているかもしれないが、卒後は獣医師免許さえあれば基礎、臨床の区別なく自分が希望する道に進むことができる。基礎系であれば研究所や企業に在籍し、実利のからみもあり、卒後ある程度の教育を受けられるかもしれないが問題は臨床の分野である。基礎系を卒業し勤務医として働く場合、正しい技術知識の習得の是非はその病院によることが大きすぎるのではないかと思う。また大学病院での研修制度も不十分であり、多くの新卒獣医師にとっては勉強したくともする場がなかなかないというのが現状ではないだろうか。

学生時代、研修医時代をともに経験した私の意見では、東大の研修医をみても勉強したくて来ている人は、ほかかっておいても深夜まで勉強している。これはアメリカの Vet. Student が1つの目標をもって一生懸命勉強しているのと同じだと思う。

基礎と臨床の2つの目標に分かれてしまっている日本の現状では、今までの6年制分の知識の習得を4年間で終わらせ、卒業、もしくは残りの2年（1年）を、より実践的な技術習得に当てるべきではないかというのが私の意見。欧米と同じレベルという目標は重要だが、学生の最終目標が異なる日本では、臨床分野のみの向上を目指しても基礎の反発を招くし、その逆もまた同じであると思う。

低学年からの獣医学研修（6名）

No.53 小動物臨床

専門学を学ぶ目的で大学に入るのだから、入学してすぐに専門教科を取り入れるべき（今はそうならないかもしれないが）、6年間という教育期間は必要と思うが、無駄が多い。

No.17 小動物臨床

今できる改善希望としては、各科目毎の横の連携および1年次からの病院研修であり、何のために勉強しているかがはっきりしてくるかもしれない。

No.39 県 嘱託

研究室に入るまでの3年間で獣医学の基礎を学ぶ期間であるはずなのに、その3年間にやったことというのがあまり記憶に残っていない。せっかく6年もあるのだから臨床へ行くにしても基礎系に行くにしても様々な講座の関連性をもっと持たせて、基礎から臨床、応用まで系統立てた教育が受けられればよいと思う。

No.41 県 嘱託

6年という期間が獣医学を学ぶのに短いか長いかはわからないが、2年生までの一般教養の期間は内容が薄かったように思った。臨床に関心があったので、低学年のうちから少しでも臨床に触れたかっとなと思う。せっかく6年あるのなら1年のうちから個々の興味ある分野の実習を見学、体験させてもらえる様なカリキュラムを組むなどして、学生が将来どの分野を深く勉強したいか判断できるような環境をつくって頂きたい。(実際、研究室に入るまで深いところは分からないので研究室を移動する学生が少なくはなく、その分の期間もあまり有意義ではないと考えるため)

No.42 小動物臨床

6年制教育では、基礎4年、実践2年と区別して考えてはその意義が学生にとって低いのではないだろうか? 実践的知識や技術というものは、くり返し使うことによって身につくものであるから、6年間を通して実践を経験しながら指導を受けるほうがよいと思われる。現状で実践教育システムなるものが存在するようにはとても思えなかった。

国家試験で直接技術を試されているわけではないので、その意味では本来不要なのかもしれないが、臨床現場に身をおくと獣医学的知識を体系的に整理しなおすいい刺激となり個人的には国家試験にも十分通用したと思っている。ただ現場で直接整理できたとはいいい難く、偏りもあるため個人差が大きいかもしれない。

No.70 団体職員

一般教養の内容が充実しておらず、専門への導入に役に立たないから“6年も要らない”という自虐的なセリフがささやかれていたのでは。獣医学との関連を配慮しつつ、ただの専門学校と違うためには、一般教養の充実が不可欠である。

教官不足、学生の労力に依存(6名)

No.32 市職員



せつかくの6年制であるが、入った研究室以外の研究室に関係する知識や技術がほとんど身につけられない今の体制では、社会での獣医師ライセンスに対する信頼度や期待度が低くなるのも仕方がないと思える。学生の労働力に期待しているような、貧しい現状では教育のレベルアップは図れないし、学生の時間的、肉体的犠牲が大である。もっと効率的に学生が知識や技術を身につけられるようにするよう、システムの向上や教官の意識の改変が必要。

#### No.33 市職員

臨床系の講座で休日もなく大学に行っていて、学生数が少なくまかされることも多く色々経験できて充実していたが、教官がもっといれば、色々な考え方、技術等を勉強できたのではないかと考えている。

#### No.34 小動物臨床

プラス2年間に見合うための授業内容、教官数が確保されていないのではないか。授業料も上がり続ける中、6年間を費やす学生にとっては不満も多いのではないかと。

2年間が卒論のためという名目で、深い狭い分野の研究に費やされている。就職してから、あるいはさらに進学してから学んでもよい気がする（非常にマニアックな分野については）。

6年間は国民が獣医師として当然身につけているであろうと思っているような知識・技術をしっかり習得すべきでは、どのような職種に就こうとも全ての分野についての最低限の知識・技術は習得しておくべき。それに気付いていない獣医師がいることも問題。

#### No.66 小動物臨床

2年間（5，6年）については、基礎系講座は卒論のため、臨床系講座は教授の実験またはただの労働力となっていたように思える。

4年終了時点で就職相談や将来的な話し合いが必要なかもしれない。国試についても改善が必要。

#### No.67 小動物臨床

とにかく5、6年において各研究室の仕事、卒論に追われる毎日で、自分のやりたいことがあるのにそれができなかったことがすごく残念に思える。臨床を目指すものにとってはもっと教育体制の改善を願いたい。学生が教授、助教授の道具になっていたような（言いすぎ？）気がする。卒論にかかるパワー（時間と労力）をもっと他の教育部分に注げたらと思う。

#### No.99 小動物臨床 回答：不十分

結論として6年制は地方国立には荷が重すぎ無駄が多い。指導する教官の質も量も不足していることが最大の要因だろう。卒論の名のもと2～3年間、実験技官として退屈させないようにこき使うのは良心的な部類である。実際ろくに仕事もあたえず禁固刑さながらの教室もあるようだ。国家試験の勉強も2～3ヶ月身を入れて行えば充分であろう。

その他

No.38 県職員（衛生）

獣医を志す者がどのような心構えをもつべきかなど精神面の教育も必要なのでは？自分の心構え次第でどうにでもなるだろうが、色々な意味で大変な職種だろうと今思っている。

大学に入る時は大きな夢をかかえて入学し、卒業したらある程度は戦力というか、動ける知識技術が身についていると思っていたが、学生に遊びを考えさせる隙があるというか・・・。教育の内容自体にも問題があるのではなからうか？

No.43 小動物臨床

2年間で将来のための実践プログラムとしての実習であればあまりにお粗末な内容だった。基礎系の面では関連企業と蜜に連携したり、指導者を招いたりして、今行っている事が実際に役に立つという感覚を与えなくてはならないと思う。

臨床は2～3ヶ月の時間を使って病院での研修が必要。週単位等で各分野をまわるのが良いと思う（それだけのスタッフ、設備、患畜、活気ややる気が必要）

No.52 元公務員

在学中では気付かないが、卒業後に6年間の意義を考えると残念に思う。自分自身の努力不足も当然あるが、やはり教育システムが社会と切り離し、意欲向上をさまたげているように思う。

No.59 小動物臨床

実践的な獣医学教育が望ましいと考える。宮大での講義はもちろん興味深く聞けるのもあったが、多くは机上の学問の感を受けた。時に、東大など学外で活躍されている先生の講義をきく機会があったが、先生の熱意やその研究に費やしたであろう時間が随所にみえて、非常におもしろかったように思う。

九大統合により、各分野での第一人者の方に講義いただけるような体制になれば学生一人ひとりに、確実に先の見える6年間、目標の持ちやすい6年間が今以上に与えられると思う。

No.61 もと県嘱託

教育については特に臨床系で非常に不足を感じた。

No.65 共済

2年間は研究室での仕事が多く、手いっぱいという感じだった。病理講座にいたため国家試験ではかなり有利であり、また、現場に出て技術を一通り習得してからは病理の知識も役立っているように思う。臨床的な知識技術は大学では習得した部分が少なく現場で得たものなので、その枠を拡げるのには本人の努力が必要となり、時間のロスにもつながる。

No.72 県職員 衛生

獣医師の職場は分野も広く、それらすべての実践的技術を教育するのは難しいと考える。修士課程の充実を図りそこで臨床系の実践技術を習得していくのがよいのではないか。

No.73 県職員 衛生

とにかく実践的技術の習得が自分は全くできていなかった。基礎系の研究室だったのでラボ検査においては研究室で身につけたものが大変役に立ったが、臨床系は全く役に立たなかった。現場で農家と話をする機会が多いが、農家から教えて頂くばかりで“先生”と呼ばれるのを申し訳なく思っていた（フィールドにおける知識がないということ）。限られた6年間で基礎、臨床すべての実践的技術を習得するのは難しいと思うが、自分としてはもう少し臨床系を学んでおけば良かったと思う。

No.75 県職員 衛生

6年間という限られた時間で全ての学生に臨床系の知識や技術を教えるのは不可能だと思うが、研究室を決定する3年の末までに獣医の仕事の多様性と、それぞれで重要視される能力が何かということを伝える場が必要だと思う。

## 回答者からの意見 ~ 6年制教育について 教育以外の面 ~

時間に余裕があった（同様意見5名）

No.17 小動物臨床 回答：満足

時間！！あれだけ好きなことも出来、獣医師のライセンスも頂けたので、大変感謝！！南九州という大らかな土地柄も自分にはベストだった。

No.52 元公務員 回答：満足

卒業まで時間的余裕があったことで、精神的に安定できる。社会とは孤立しがちな学生生活に違う世界を見出させる。

学外活動ができた（同様意見8名）

No.8 共済 回答：満足

学外での活動や、同年齢でない人達、社会人との交流を行うことが出来た2年間で意義はあったと思う。少しだけ社会をのぞけたと思う。

No.14 小動物臨床 回答：満足

自由に使える時間がかかなりあり、サークル活動、アルバイト活動、旅行、学外実習など様々な体験ができて、多くの人と出会い、今の自分に大きな影響を与えてくれた、すばらしい6年間だった。

研究に有意義であった（3名）

No.71 製薬会社 回答：どちらかといえば満足

研究室での研究はむしろ時間が足りないくらい。ただ獣医の卵としてではなく研究者の卵としての意識だった。

No.84 製薬会社 回答：満足

研究室での実験（ある意味では自発的な研究）や人的交流に関しては、時間を充分にあてることができたため有意義な学生生活だった。学生生活の意義は学習以外の時間にも多くの時間を費やせる事にもあると思うが、今後獣医学向上のためにシステム変更がなされた場合には時間的に勉強と遊びの両立は困難になってくると思う。

その他

No.5 共済 回答：不十分

病院内での作業に追われて、学外実習などのための時間的な余裕がなかった。

## 回答者からの意見 ~ 6年間教育の入学前の予想との違い~

臨床系の比重が低い。卒業時の知識・技術が予想より不足（同様意見 2 1 名）

No.34 小動物臨床 回答：予想と大きく異なる

獣医学における臨床教育の比重が低い。臨床系の技術を身につけることが困難。臨床系の知識・技術の習得が不十分でも卒業・資格取得が可能。

No.75 県職員 衛生

入学前は獣医 = 小動物臨床というイメージが強かったが、実際はそれを目的とした科目は少なかった（良い悪いは別として）。

No.32 市職員 回答：やや予想と異なる

もっと高度な教育システムを期待していた。獣医師としてあまりにも未熟なまま社会に送り出された気がする。

大動物の臨床が少ない（2 名）

No. 5 共済 回答：やや予想と異なる

病院でみる大動物患畜の数があまりにも少なかった。

No.65 共済 回答：予想とやや異なる

大学案内等では大動物臨床中心という様に書かれていた。

予想以上に授業が少ない、時間がある、教育体制が弱いなど（同様意見 1 0 名）

No.17 小動物臨床 回答：予想と大きく異なる

“こんないい加減でいいのか？”というくらい驚いた。ただしその分、自主的にしたい研究をできたが、本来の大学の形だったように思う。

No.23 県職員 農政 回答：やや予想と異なる

現在の6年間のカリキュラムでは4年間でも十分ではないかと感じさせられた。

No.41 県 嘱託 回答：やや予想と異なる

4年制から6年制に変わったので、4年では消化できないような教育内容なのだろうと想像していたが、大学に入ってみると1日の授業数が少ない日が多く驚いた。

No.83 県職員 本庁 回答：やや予想と異なる

必須の講義内容であっても人がいないからということで他大学の教官が教えに来ていた。必須の講義科目

でさえスタッフがいない、こんなことはないだろう。しっかりした体制がないことに、がっかりした。

一般教養が予想外。早くから獣医学を学びたかった。(同様意見5名)

No.14 小動物臨床 回答：予想と大きく異なる

一般教養を勉強するということを知らなかった。1～2年の頃はもっと獣医学を勉強したいと思っていた。

No.39 県 嘱託 回答：やや予想と異なる

一般教養が思いのほか面白くなかった。教育学部の教授の専門をおしつけられたような感じだった。

No.42 小動物臨床 回答：予想と大きく異なる

6年一貫教育とは、6年間を通じて臨床現場と接触しながら(実践と関わりながら)進められると思っていた。

その他

No.33 市職員 回答：やや予想と異なる

大学病院は最先端の機器等が備わっているものだと思っていたが、学生時代は断層撮影装置や放射線照射装置はなかった。滅菌器械が壊れても修理してもらえず、小さなオートクレーブで1日かけて滅菌していた。予算がないとのことであったが、山口大にはこういった機器はあるし、大学病院としてはちょっとさびしいかなと思った。

No.35 県職員(農政) 回答：やや予想と異なる

具体的な予想というのは特に持ってはいなかったが、なんとなくこんなものか、と思った記憶がある。

No.36 県職員(衛生) 回答：予想と大きく異なる

獣医学教育のエキスパート軍団に会えることを期待していたが、実験や論文で優秀な先生方も教えるとなると、学生の希望を把握しかねていたように思われる。また学生の卒業後のことに関しては本人まかせとなっていた。

No.38 県職員(衛生) 回答：予想と大きく異なる

日本で免許をとれば世界的に通用すると思っていた。単位試験がもっと厳しいものと思っていた。海外先進国の情報があふれ、国際的に門の広いところと思っていた。海外留学とか。

No.43 小動物臨床 回答：予想と大きく異なる

獣医は動物の医学部として考えていたので、大きな動物病院に動物があふれ、最先端の技術や設備に触れ、日本や世界で有名な指導者がいると思っていた。(まだ私大の方がよい)

## 回答者からの意見 ～再編について～

### 入学生としてどちらの大学を選ぶか

再編後の大学を選ぶ根拠

高質、高レベルの教育が期待できる：8名

No.14 小動物臨床 回答：再編後の大学

同じ期間、大学で教育を受けるなら、できるだけレベルの高い教育を受けたいと思う。

科目の幅拡大が魅力：2名

No.34 小動物臨床 回答：再編後の大学

現体制では学ぶことができなかつた科目が多いから。

教育の国際水準というのが魅力：4名

No.41 県 嘱託 回答：再編後の大学

欧米でも通用するレベルに日本の大学も達すれば、海外で活動する際もライセンスの壁がなくなり獣医師の職としての幅も広がるため。

意欲や活気の向上につながる：3名

No.54 県 嘱託 回答：再編後の大学

学びたい、身につけたい応用獣医学の教育がより充実している大学を選び、学習意欲を満たせる方が好ましいため。

臨床系の充実に期待3名

No.68 小動物臨床 回答：再編後の大学

臨床医になるつもりなら今までの教育システムだと困るから。

その他

No.18 小動物臨床 回答：再編後の大学

向上心から。

No.84 製薬会社 回答：再編後の大学

入学前にイメージしていた大学が再編後の大学に近いから。

再編後の大学を選んだが疑問がある点

No.8 共済 回答：再編後の大学

ただしあまり選択の変更ができないような状態は好ましくない。

No.11 小動物臨床 回答：再編後の大学

入学時にそこまでの知識や情報を得た上で大学を選択することが可能とは思えない。入学時の学力等のレベルや地理的問題などで判断してしまうことが主ではないだろうか。

どちらでもよいとする理由

No.17 小動物臨床 回答：どちらでもよい

現体制の良さもあるため、臨床という面を強調しすぎる余り良さを無くして欲しくない。国際レベルといっても、そもそも国民のレベル、常識も欧米と異なるため、一概に格差がとして扱うのは？日本の現状では動物愛護意識の差は国民の間でも広く、その比率が反映されても良いのでは？ハードソフトとも一気に欧米並にしても国民の需要を先回りし過ぎることになるのでは？したがって再編よりはライセンスのさらなる特化が良いと思う。

No.65 共済 回答：わからない

欧米の大学の内容を体験してないため、判断に迷う。

No.66 小動物臨床 回答：どちらでもよい

それぞれに十分な意味があると思う。

No.70 団体職員 回答：どちらでもよい

どこの大学に入ろうと、入学後のモチベーションのモチ方により得られる結果は同じだと思うから。現在の職業から、あれをもう少し教えてほしかったと振り返ることはできるが、どんなに教育内容が充実しようと本人の意識次第で良くも悪くもなろう。

No.72 県職員 衛生 回答：どちらでもよい

自分自身においては現体制でもよい。社会的には別と思うが。

## **国際基準レベルの教育を受けることを、学生としてどう思うか。**

より高いレベルの教育を受けたいと思うから（同様の意見9名）

No.52 元公務員 回答：きわめて好ましい

（在学中、日本と国際レベルの差をよく理解していなかったが、）教育の質、量、ともに世界に通用するのならば、各自のよい刺激にもなり満足できる。選択肢の少ない中での教育では、どうしても視野が狭く、低いレベルに留まりがちになると思うから。

No.14 小動物臨床 回答：きわめて好ましい



同じ期間、大学で教育を受けるなら、できるだけレベルの高い教育を受けたいと思う。

在学中の意識が上がる（2名）

No.53 小動物臨床 回答：きわめて好ましい

学生時代から、より高度な教育を受ければ意識も高まるし、社会に出てからの無駄もなくなるのでは。

No.66 小動物臨床 回答：好ましい

専門分野への知識や技術、また意識が高まるだろう。

卒後のメリット（3名）

No.54 梟 嘱託 回答：好ましい

卒業後の方向も見えやすくなっただろうし、より高い意義を持ったライセンスに対する信頼や自信が生まれたのではないかと考えるため。

No.99 小動物臨床 回答：きわめて好ましい

将来の活動の範囲が、少なくとも今より容易に国外を選択できるようになり、個人の生き残りにも重要なことである。

No.82 小動物臨床 回答：きわめて好ましい

日本のみならず、世界に職場を求めることも可能になる。

No.86 小動物臨床 回答：きわめて好ましい

実際に、卒業して勉強し直さないといけないことが多すぎたから。また、外国の獣医のレベルを知って驚くことが多いから。

好ましいが問題もある

No.42 小動物臨床 回答：きわめて好ましい

内容があまりにも細分化され、高度であるというだけでは、学生にとって酷かもしれない。国際基準レベルの内容も重要だが教育システム自体が国際レベルであればきわめて好ましいといえると思う。

No.1 研修医 回答：きわめて好ましい

臨床と基礎の2つに分かれた目標をどうするのかという問題はある。

No.70 団体職員 回答：きわめて好ましい

やはり一般教養に問題がある。“国際基準”以前の英語力をつけなければ獣医学の世界に入れないというハードルを入試以降に設けた方が良いのでは・・・。

No.71 製薬会社 回答：好ましい

ただし、再編により本当に国際レベルに上がるのか？教官は変わらないのだし。人数が増えればきめの細かい教育（特に実習において）ができなくなる可能性もある。

No.75 県職員 衛生 回答：好ましい

獣医学教育の国際基準レベルがどの程度のものかわからないので非常に答えにくい。

No.84 製薬会社 回答：好ましい

受動的にはレベルアップするとは思うが、単に再編しただけでは今の状況と大差ない気がする。自分が再編後の大学生だとして、それについていけるだけの意識を持てるかというところと少々疑問がある。

## 社会人としてどう思うか

No.1 研修医 回答：きわめて意義がある

動物の命にかかわるにもかかわらず、独学での技術習得が主体になっている現状を変えねばならない。

No.8 共済 回答：きわめて意義がある

ある程度自分の専門の道というものを見つけた上でうける応用獣医学を学べる時間と機会、場所がもしあるならとても有意義だと思う。

No.14 小動物臨床 回答：きわめて意義がある

国際基準レベルのライセンスをもって仕事を始めても、職場の意識や技術の向上がなければ意味がない。教育の向上とともに、これらが少しずつ改善されていくと思う。

No.15 小動物臨床 回答：きわめて意義がある

知識は力である。現況では言葉だけで丸め込むという診療が多すぎる。獣医師の最低限の知識が異なりすぎてみにくい争いがある。

No.33 市職員 回答：きわめて意義がある

今の仕事はと畜検査だが、内科、病理、微生物、伝染病、寄生虫等の知識を総合的に考慮して診断しなければならない。診断能力の向上の面からいっても教育の改善の意義があると思う。

No.42 小動物臨床 回答：きわめて意義がある

臨床現場では、総合的な獣医学の知識と技術が必要とされ、なおかつそれらを正確に実行し、応用していく必要があることから、システマチックな教育、実践重視の内容は意義が高い。

No.43 小動物臨床 回答：ある程度意義はある  
改善されていれば少しは今の仕事の役に立つかもしれないから。

No.52 元公務員 回答：きわめて意義がある  
十分な教育で育成されたことで、社会に一層貢献できると思う。

No.66 小動物臨床 回答：ある程度意義がある  
外国になめられないですむ。臨床獣医師として役立つ部分が多い。

No.73 県職員 衛生 回答：ある程度意義がある  
現場から頼りにされる獣医師になりたい。

No.75 県職員 衛生 回答：ある程度意義がある  
臨床のみの強化ということであれば、ある程度意義がある。

No.80 県職員 衛生 回答：意義はない  
あまり獣医師としての仕事をしてないように思われないので。

No.82 小動物臨床 回答：きわめて意義がある  
常に欧米との格差を感じている。再編後に高度教育ができれば、そこを情報発信基地として、また施設を利用できることによって、技術や知識の習得等により現場に反映できる。

No.84 製薬会社 回答：ある程度意義がある  
企業に働く場合でも獣医学の知識を持っているという事はとても有効であるが、獣医学意外の教育（経済、法学等）も必要だと思う。

No.86 小動物臨床 回答  
今のままではいけないと感じるから。

## 統廃合による教育改善は必要か

No.1 研修医 回答：絶対に必要

財政や他学科とのバランスに関する負の面は分からないが、当初は地域のために分院があってもよいのではないかと。教育改善により獣医師の質が上がればいずれ不要になるのでは。

No.3 県職員（衛生） 未回答

統廃合による獣医学教育の改善は必要だと思うが、畜産県で農獣医学科が必要であったからこそ現在の学科が存在していると思われるので、キャンパスの統合移動については賛成しがたい。

No.8 共済 回答：どちらかという必要

獣医師としては世界のレベルに達するのは良いことだと思うが、国民が（特に地方）望む方向に進んでいけるかが不安

No.13 小動物臨床 回答：どちらかという必要

宮大のみで教員の増員、予算の増強などにより国際水準をみたく獣医学科づくりが無理である以上、統廃合は必要だと思う。

No.14 小動物臨床 回答：どちらかという必要

入学時と今の大学病院を比べて診断機器等は増えたが、総合的には国際レベルには遠いかと思う。統廃合によって、もう少し大きな変化がみられるのは間違いないと思う。

No.15 小動物臨床 回答：絶対に必要

日本の獣医学のレベルが低すぎる。一部の専門性をもった開業医に引っ張られている。大学が知識の中心にならなければいけない。

No.18 小動物臨床 回答：絶対に必要

地方国立の（教育レベル）設備レベルは国際レベルどころか中央の国立や私立の大学に比べて満足いくものではない。現大学の規模縮小や地域のニーズの問題もあると思うが、より優れた人材としての獣医師を輩出するためには必要なのではないかと。

No.20 県職員 農政 回答：絶対に必要

統廃合によるデメリットがクローズアップされているが、統廃合により大学から社会人へとフィードバックされていくメリット（総合的な知識を得ている獣医師の現場への還元）の方が大きいのではないかと。

No.21 県職員 農政 回答：絶対に必要

農学部としては規模縮小でも医大との統合で大学規模は縮小しない。地域の臨床獣医師にも違った形での技術支援はできると思う。優秀な獣医師を育成することで、社会に還元できることは大きくなると思う。

No.27 小動物臨床 回答：どちらかという必要

大学の改善は獣医師界全体の改善の一部。ただし大学は教育の場であるだけでなく、その他多くの機能をもった場であることも考慮しなくてはならない。

No.33 市職員 回答：絶対に必要

農学部や他学科とのバランスや財政の事はわからないし、獣医師の地位の向上も重要なことではない。ただ学生はレベルの高い教育を望んでいるし、レベルの高い獣医師が増えれば社会的貢献も高くなると思う。

No.34 小動物臨床 回答：絶対に必要

現在のままでは十分な教育ができてないことは誰もが認識しているはず。1日も早い教育改善を望む。

No.35 県職員（農政） 回答：どちらかという必要

今までの体制を維持しても、獣医師の質の向上はこれ以上望めないのではないだろうか。すべての分野における教育内容、体系の充実は必須だと思う。

No.38 県職員（衛生） 回答：絶対に必要

今の日本の獣医大学が世界基準から見てどのレベルにあるか知らないが、世界レベルにまで引き上げられた教育を日本で受けられることは素晴らしい事と思う。

No.39 県 嘱託 回答：どちらかという必要

教授陣が増え、設備が充実するのであれば統廃合の意義はあると思う。

6年間獣医学教育を受けたにも関わらず、それ相応の学力や獣医師としてのあり方や目標というものを身につけて卒業する人は少ないのではないかと思う。学力だけでなく意識も高いレベルをめざした獣医教育の改善が必要だと思う。現在のままでも知識や意識に関しては改善できるかもしれませんが、設備（特に動物病院）が変わらなければ、よりよい技術は習得できないと思う。

No.42 小動物臨床 回答：絶対に必要

獣医学の必要性を問うことと同じことで、獣医学が必要とされるからこそ、実学として洗練されていくことが要求されるわけで、その専門家である獣医師がレベルアップしていかなければならないのは当然のことである。

No.44 小動物臨床 回答：どちらかという必要

農学部他学科を気にする必要は全くない。

良くなるのであれば改善すべき。新たな財政はある程度必要だが今までの無駄を見直すとそんなに変わらないのでは。

No.52 元公務員 回答：絶対に必要

獣医学教育の改善は、単なる高度な教育のつめ込みだけでなく、社会貢献を見据えた教育であってほしい。そのような教育システムが現大学で不可能であれば、大学の規模縮小になろうと獣医学の質向上を優先すべきで、他学科と切り離すことは、在学中でも別々の学部であっても不自然でないほどの感があったので問題ないと思う。小動物臨床については大動物臨床や公衆衛生に比べ、経済的な立場から軽んじられることが多いが、現状での教育は社会的要求に即対応できていない。

No.53 小動物臨床 回答：絶対に必要

統廃合はともかく、現状の改善は必要と思う。個々の大学がそれぞれレベルをあげられればそれにこしたことはないと思うが、卒業生した大学によって獣医師の質が変わるようなら問題。そのレベルアップが統廃合しか方法がないのならば再編は必要。

No.54 県 嘱託 回答：どちらかという必要

ライセンス教育を行う以上、少しでも卒業後に不安の残らないようにしていく事が基本だと思う。デメリットを考えすぎて、獣医学教育のレベルが向上しないようなら、ライセンスの意義すら薄まりかねない。

No.58 団体職員 回答：どちらかという必要

再編してどのように変化するのか（教育的、経済的な面で）。

具体的な内容がよく分からない。国際基準レベルといっても、どのようなことなのか分かりにくいので正直答えられない。

No.65 共済 回答：どちらかという必要

大学の教育改善は必要だと思う。学生の教育に力を注ぐ教官というよりも、自分の研究に力を注いでいる教官が多く、教官を刺激するためにも必要であると思う

No.66 小動物臨床 回答：どちらかという必要

賛否それぞれの意見は分るが卒業生の大半はやはり“教育の改善”は必要と考えている。統廃合はそのため環境作りとして予算面などで必要なら賛成するかたちです。

No.69 小動物臨床 回答：絶対に必要

自分が今高校生と仮定して、獣医科大学の入学を希望していて、将来今の仕事につくとすると絶対に私立大学に入るからです（宮大での学生生活はたしかにすばらしく、いい思い出だが今の仕事のことだけを考

えると宮大は受験しないと思う)。

No.70 団体職員 回答：絶対に必要

経費節減につながり、教育内容の充実が図れるのであれば、躊躇する理由はない。

No.71 製薬会社 回答：どちらかという必要

統廃合によるデメリットを凌ぐメリットを生むものでなければ再編の意味はないと思う。具体的な改善策はすぐには出ないが、環境の整備、そして教官の質（意識）の向上などは再編に向けて必須でしょう。

No.73 県職員 衛生 回答：どちらかという必要

自分自身が現体制の大学を卒業して不満があった。応用獣医学が強化されるのなら、それを強く期待する。

No.76 県職員 衛生 回答：どちらかという必要

日本国内においてもペットを家族同様に飼う家庭が増えており、獣医師の地位向上が期待される中、現在のような教育内容ではあまりだと思う。

No.79 県職員 衛生 回答：どちらかという必要

デメリットを感じるのは教育現場に直接関与しない人が多いのではないか。現場に関わる（特に学生にとっては）メリットの方が多いと思う。学生のための教育機関であるならば、教育改善は当然必要。

No.82 小動物臨床 回答：絶対に必要

ヨーロッパでの国境の撤廃、北米での協力体制など、世界でも確実にすべての分野で統合や協力関係の強化が進んでいる。現場に出た獣医師でないとわからないと思うが、日本の獣医学教育はきわめて貧弱で、国際舞台でも相手にされなくなっている。統廃合により充実した教育、研究をぜひ行ってほしい。

No.83 県職員 回答：絶対に必要

現在、人の病気は動物が感染源であったり、動物の病気が日本の他、世界の人に多大な影響を与えている。こうした現状では、さらに高いレベルの教育を習得した上での社会活動を獣医師は社会的に求められている。臨床獣医師はもっと公衆衛生の面の知識が必要であるし、公衆衛生獣医師はもっと臨床面の知識も必要である。大学の教授陣の強化が必要である。獣医学科でわずか10人程度の教授数では社会からの支持は得にくいのではないか。

No.84 製薬会社 回答：どちらかという必要

特に臨床に関しては全体のレベルアップは必須。卒業後の就職先に訓練をまかせる体制はあまりにも無責任。ただし学生の意識が変わること（社会的に責任のある学問を学んでいるという自覚をもつ）が大前提。

No.86 小動物臨床 回答：絶対に必要

国際基準レベルという前に、既に他の私立大学とさえ差はかなり開いているのではないかという危機感を持っている。設備にしても研究室スタッフの層の厚みにしても、今のままでは卒業した時点で私立大学とは差が出てくると考える。農学部他学科とのバランスというが、世間からの見方は人医に近いレベルを求めており、事実入試レベルも高くなっているようである、このことを考えると、早急に対策を立てるべきだと考える。その実施にあたり、各大学で旧態のまま小改革をしてレベルを上げようとするより、統合に集中させて合理的に改革を行った方が財政面でも合理的だと思う。

No.92 小動物臨床 回答：どちらかという必要

再編しなければ教育内容を改善できないのなら、日本の獣医学教育のレベルを上げるためには必要なこと。

No.99 小動物臨床 回答：絶対に必要

既存組織の再構築は当然必要である。現在の地方獣医学科の配置自体過去の遺物であり、すでに時代の要求も、地域の期待も届かない域になっている。既存大学自体不要で、税金の無駄遣いであると思う。



## 統廃合の方法について

### 再編では大学側に何を最も重視してほしいか

No.18 小動物臨床 回答：実践的な獣医学教育

特に実践的な教育と、大学病院の充実を期待する。一般の開業医の中にも専門性を持った病院が多くあるが、大学には国内の核となるような立場にあってほしいと思う(臨床、および臨床に即した研究において)。

No.42 小動物臨床 回答：実践的な獣医学教育

獣医学は幅広い分野にわたって利用されるが、“獣医師にしかできない”部分は獣医学教育を受けた学生がきっちり持って社会へ出ていかなければならない。この“獣医師にしかできない”こととして、つきつめれば臨床に他ならないと考える。

No.1 研修医 回答：獣医学教育の内容

他学科あるいは地域とのバランス、財政面など複雑な問題があるだろうが、再編で教育内容の改善が実施されれば、長期的な目で見れば日本の獣医界、獣医師、動物のすべてにプラス効果が現れるのではないかと。他国に対しても多くの発表をしていくことで、日本人の動物に対する評価も変わってくるのではないかと。地域や大学に痛手でも、現代の会社の合併や倒産を考えれば、大学だけが感情に流されるのはどうかと思う。教育内容については実践的な獣医学教育を重視してほしい。動物も飼主も最良の獣医療を専門家に受けたいという思いがあり、獣医師を育てる大学がそれに応えるのは当然のことであり、一番大切なことだと思う。

## 大学の統廃合で、どの案に賛成か

4大統合のスケールメリットを根拠とする意見（15名）

No.32 市職員 回答：九大統合案

ぜひ九大統合を実現し、予算を集中させ、ハード面、ソフト面、ともに充実させるべきだと思う。2大合併は予算が分散する分それが難しくなり、単に2大を1つにまとめた縮小になりかねない。

No.33 市職員 回答：九大統合案

中途半端な統合では何も変わらないと思う。

地域に施設を残してほしい（9名）

No.14 小動物臨床 回答：2大合併

九大統合で教育レベルの向上が可能だとは思いますが、地域の病院としての働きは残してほしい。これまでも地域には貢献している。

No.21 共済 回答：九大統合 2大合併

大動物（畜産）中心である南九州に大学が無くなるのは農家を無視することにつながる可能性がある。ただしヶ所に統合する方がいいので（ニヶ所ではあまり変わらない）、九大でやむを得ないのか。出先の研究室的なものを南九州に残す形ですすめて欲しい。

他の大学との格差が問題（3名）

No.34 小動物臨床 回答：九大統合案

現体制では外国との獣医師のレベルの格差だけでなく、私大卒と国立卒の獣医師レベルの差も問題となるのではないかと？大規模なシステムの改善が必要。地方2大学を統合しても十分な教育が行えるようなハードソフトの充実是不可能的ではないか。（予算、教官数、学生数）

小動物臨床に関しては人口・患畜が多い地域では十分な症例数が集まることが採算性・教育内容の充実に必要なため九大案は合理的。大動物臨床に関しては畜産地域から大学がなくなることには不満があるように思われるが、現在大学がどれ程利用されているのか？各地域の共済、家保、試験場等の方がハードソフトとも充実しているのではないかと。

No.82 小動物臨床 回答：九大統合案

各大学が生き残りをかけて魅力ある大学作りに取り組んでいる。特に私立大学の施設、設備の充実は著しく、地方国立大学はどれも貧弱でその格差は広がるばかりである。単に2大学を集めるだけでなく、充実した施設を作るために、また教育を行うために資金を得るには、4大学合併が必要（不公平感もなくなる）。

統廃合に疑問

No.25 県職員 農政 回答：回答できない

九大統合で職員数、設備充実等の教育体制整備は期待できるかもしれないが、畜産の現場（症例を含む）について勉強したい場合、畜産県である宮崎、鹿児島の方が色々経験できるのではないかという考えもある。その点がカバーできるといいのだが。統廃合により具体的にどう変わるのか、メリット、デメリットのウエイトについてもわからないため賛否は答えられない。

No.58 団体職員 回答：2大合併

統合されるとなぜ国際基準レベルの教育が可能なのか？現在の小規模な教育体制でなしえてないことが、本当に統合されることによって可能になるのか。

No.66 小動物臨床 回答：その他（基礎を地方4大、応用・臨床を統合）

九大に十分な場所はあるのか？国際基準レベルとはどういうことか？小動物臨床には良くて大動物にはより不利益となるのでは？

#### 社会貢献につながる（4名）

No.24 県職員 農政 回答：九大統合

臨床以外の獣医の職域はいまだに認知度が低く、海外からの伝染病侵入のリスクは上がり獣医師に要求されることは高度になってきているが、行政でも人員設備の対応は不十分である。獣医の仕事をもっとアピールした上で再編により国際基準レベルの教育を実施すれば、今より社会貢献できると思うし、獣医師の地位向上にもつながると思う。

#### 社会の受け皿の問題（2名）

No.78 県職員 衛生 回答：2大合併

獣医学教育の向上は望ましいことではあると思うが、それに対する社会の受け入れや地位、必要性、貢献度等、全てが国際基準として考えるには海外と異なっていると思う。大学の体制から変えていくことも大事だと思う。

#### システムの改変が必要

No.43 小動物臨床 回答：九大統合

獣医学の教育充実や先端医療にともなう設備をそろえる為には、やはり地方大学の一学科よりは集中して学部として運営される方が良いと思う。しかし産業動物の治療・研究においては地方にいる方が行いやすいかもしれない。そこで1～3、4年の間を九大で学び、その後基礎、応用、小動物臨床、産業動物臨床にコース分けを行って、産業動物コースや繁殖等は、地方に設置した分校もしくは研究施設を利用するというのはいかがでしょうか。

No.84 製薬会社 回答：その他（どの方法でもよい）

6年一貫教育よりも4 + 2 ( 4 ) の2段階にした方が良いと思う。後の2年間は進路にあった専門分野の学習にあて、そこである程度の基準をクリアしなければ臨床に進めない、基礎に進む人は薬学部、医学部(基礎)に学科を変更できる柔軟なシステムを望む。またさらに後半では実際の現場での訓練(長期間)も実習のひとつに組み入れた方が学生の自覚も育つと思う。

その他

No.36 県職員(衛生) 回答:九大統合案

教育側の利害関係が大きくなり、本来の主旨に反した体制になることを懸念する。そのためにも教育者の生活面もしっかり考え、その上で行うのが望ましいと思う。

また教育は6年間だけ受ければ完成というわけではないので、卒業後も必要に応じて大学で学べる体制を獣医師界全体でも盛り上げていく必要がある。また今後、その社会的ニーズに十分こたえられる教育者が必要であり、大学ばかりいる教授以外にも大学外で活躍している獣医師の抜擢などするとよいのではないかと。

No.74 県職員 衛生 回答:未回答

現在、社会のあらゆる面がグローバル化しており、獣医師の資格もやはり国際基準レベルになることが望まれ、そのための教育が実施されることは大変重要である。この点では九大統合は非常に重要である。しかし現在、宮大が近くにあるおかげで仕事の上で有意義に活用させていただき、卒後の勉強も可能である。大学の地方における役割を考えた場合、地方に獣医学科がなくなるのは少し問題である。インターネット等の情報伝達、収集手段はあるが、やはり実物を見、討論し、体験することは大切である。

また、獣医師は多方面で活躍しており、獣医学科が農学部に属する必要があるのかどうか検討されるべきではないかと。

No.99 小動物臨床 回答:九大統合案

再編できないのなら、講師の複数校兼任、学生の国内留学(一時編入)を容易に行えるよう整備するのはどうか。あまり現実的でなく余分に費用がかかりそうだが、自分が学生の頃興味があった講義はすべて集中講義で2~3日だけで終了してしまい煮えきらないものであった。

教育に必要なものが一ヶ所に揃ってないことが最も大きな問題と思われる。地域性だの特色という言葉は、他の部分が力不足、手薄との指摘はまぬがれない。わが国のニーズ、独自性以前に教育に最低限必要なレベルの組織造りを急ぐべきだ。

## 回答者からの意見

### 獣医学教育改善の意思決定では誰の意見が反映されるのが民主的か

獣医学教育および獣医職関係者の意見が反映されるべき（同様意見26名）

No.32 市職員 回答：教官 学生 卒業生

獣医学教育の実情や獣医師としての個々の能力は当事者（在学、卒業生、教官）以外に知りえないから。また、同じ6年間の専門教育を受けながら、実社会でのライセンスの価値があまりに医師と異なる事に違和感を抱いている事も当事者以外にわかりえないはずだから。

No.6 開業（小動物 大動物） 回答：教官 学生 卒業生

獣医学関係者の意見が一番的をえていると思われる。有識者の意見にも耳を傾けるべきだが、意思を決定するのは獣医関係者であるべき。なぜならこの統廃合の結果に一番影響を受け、一番責任を持たなければならぬのは我々獣医関係者だと思われるからだ。

No.7 共済 回答：有識者 卒業生 国民

現場（実情）を知らない人の意見が反映されるのはおかしい。

No.34 小動物臨床 回答：教官 学生 卒業生 国民

現在の獣医学教育の内情を実感している獣医学科教官、学生、獣医師の意見が反映されないようでは獣医学教育の改善は不可能であろう。また国民が獣医師に求める多様な専門的な技術知識を、どの程度現体制で習得できているのか、どうすれば充実した教育を行えるのかを獣医師以外の者が理解し考察することが可能か？一地域、一大学の利益のために日本全体の獣医学教育が衰退するようなことは許しがたいことである。母校が消えても充実した教育をと切望する卒業生の気持ちを中途半端な妥協案ですりかえないで下さい！

No.14 小動物臨床 回答：有識者 教官 学生 卒業生 国民

学科内にいる人達やそれにかかわっている人達によって考えられ、決定されるべきだと思う。その場にはいないと実情はわからない。

その他

No.22 県職員 衛生 回答：有識者 現場獣医師 国民

現場獣医と有識者の十分な議論内容を積極的に情報公開し、国民に判断してもらうのが最も民主的だと思う。

No.43 小動物臨床 回答：文部科学省、大学長、有識者 学生 卒業生

文部科学省、大学長、および有識者には独立法人制へ移行した時の問題点や世界の獣医学レベルとの差を客観的に評価してもらおう。学生や卒業生は現在の制度への不満や改善点を直接感じているため。

No.52 元公務員 回答：文部科学省 大学 教官 学生 卒業生

財政面から省の立場、教育現場から大学長、獣医学科教官、現場に直面している獣医師の意見が反映されるべきだと思うので。学生においては、社会におかれることのない視野の狭さで教育改善を問題視するのは無理があるようだが、授業自体に面白みがないことは十分感じていると思う。

No.54 県 嘱託 回答：有識者 教官 学生 卒業生

卒業生は様々な現場で、実際のニーズに触れて必要な教育がみえていると考えられる。学生の学習に対する意欲は尊重されるべき。教官の研究と教育者としてのバランスも考慮しなければいけない。獣医学の世界に固まりすぎる傾向がないとはいえないので獣医師以外の有識者の意見は重要。

No.11 小動物臨床 回答：選択できない

“ 民主的 ” という言葉をどうとらえるかで回答が異なる。獣医学教育の改善を必要と思う人、思わない人が存在するわけですから、それらをすべて含めることを民主的と考えるのか、それとも必要と思う人の範疇で判断するのか。

No.71 製薬会社 回答：卒業生 国民

民主的と問われれば、国民の大多数意見が民主的なのだから当然上の2つである。しかし全ての事柄で“ 民主的 ” に事を運ぶばかりがいいことではない。このような事柄にはある程度有識者、当事者の意見が大きく反映された方がいいのでは？問題はその有識者、当事者の“ 質 ” ではないか？

No.1 研修医 回答：有識者 教官 学生 卒業生 国民

再編によって、実際に純粋な獣医学の影響を直接受ける方々の意見を聞くべきだと思う。もちろん、学長や有識者でも自分の地域の利益のみを考えた意見ではなく、獣医について考えた純粋な意見は聞くべきであるし、もっとオープンな話し合いや議論があってもいいと思う。

No.78 県職員 衛生 回答：国民

大学は税金を費やすことだから。

No.99 小動物臨床 回答：文部科学省 有識者 卒業生 国民

本来の責任者の文部科学省と獣医師以外の有識者の意見に実際の体験者である現場獣医師の声をとり入れるのが望ましい。